

# 小金井市環境報告書 令和元年度版



(滄浪泉園 40周年記念イベント)

小金井市環境部



## 目 次

### 第1章 はじめに

1. 環境報告書のねらい・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
2. 環境報告書の位置づけ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
3. 環境報告書の構成と内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
4. 環境報告書の作成と報告書を活用した点検評価の仕組み・・・・・・・・・・ 6

### 第2章 環境啓発事業

#### 取組1

- 環境講座・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

#### 取組2

- 環境フォーラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

#### 取組3

- クリーン野川作戦・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

#### 取組4

- 環境施設見学会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

#### 取組5

- 小金井市環境賞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

### 第3章 基本計画の取組の進捗状況

1. 意識・情報・学習・行動のネットワークをつくる・・・・・・・・・・・・ 13
2. 緑を守り育てる・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
3. 地下水・湧水・河川の水循環を回復する・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
4. 自然環境を一体的に保全する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
5. 公害を未然に防止する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
6. 小金井らしい景観をつくる・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
7. ごみを出さない暮らしとまちをつくる・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
8. 地域から地球環境を保全する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34

### 第4章 小金井市の環境の状況

1. 公害苦情の発生状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37
2. 大気汚染の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
3. 小金井市の大気質調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42
4. 小金井市内の道路交通騒音・振動調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44
5. 衛生害虫等の発生相談状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44
6. 飼い主のいない猫対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
7. 野川の水質・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46
8. 井戸水調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
9. 地下水位測定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48

10. 湧水調査	48
11. 放射能測定	51
第5章 市役所としての取組	
1. 小金井市環境行動指針	52
2. グリーン購入	55
3. 小金井市施設ごみゼロ化行動	56
4. エコドライブ教習会	56
5. 小金井市の環境配慮設備設置費補助制度	56
6. 小金井市役所における地球温暖化対策	58
7. 小金井市環境マネジメントシステム	61
第6章 環境基本計画の推進に関すること	
1. 推進体制	62
2. 財源の確保	62
3. 市民等の参加・協働による推進	62
4. 計画の進行管理と評価	62
第7章 点検評価結果	
1. 環境基本計画に基づく環境保全等の取組の点検評価について	63
2. 環境報告書作成について	64
3. 点検評価を受けて	64
資料編	
1. 小金井市環境方針	65
2. 環境行動チェックシート	66
3. 令和元年度グリーン購入実績一覧表	68
4. 小金井市環境保全実施計画	71
用語解説	84

## 第1章 はじめに

---

### 1. 環境報告書のねらい

この環境報告書は、小金井市環境基本条例第22条に基づき、令和元年度の年次報告書として作成するものです。

環境報告書を作成・発行する大きな目的の一つは、行政と市民がお互いの情報を共有し、コミュニケーションや協働を可能にすることです。また、情報を提供することにより、環境保全への関心を喚起し、環境保全活動をより活発にしていくことです。

また、環境報告書は、環境基本計画の進行管理という役割を担っています。計画に示された取組の方向に沿って、どれだけの取組が進められ、計画の目標がどれだけ達成されているかを明らかにすることで、取組の改善を図り、計画をより一層推進しようとするものです。

これらの目的から、本報告書では、環境基本計画の枠組に沿って、次のような情報を掲載します。

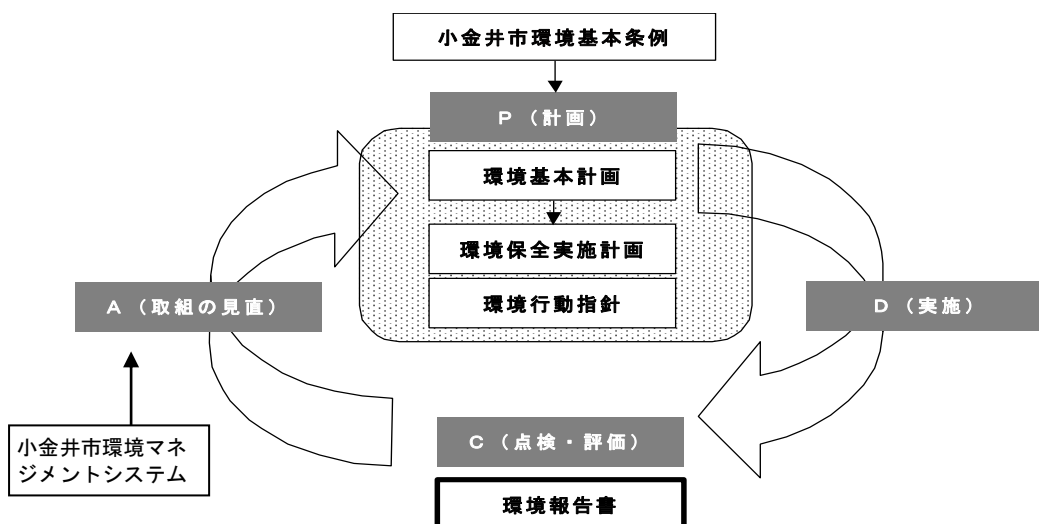
- 環境市民会議の活動状況や、その他の市民等の活動状況
- 環境の状況や課題
- 環境保全等の取組の状況

できあがった環境報告書がコミュニケーションの手段であることはもちろん、環境報告書の作成プロセス自体も、コミュニケーションの重要な一過程です。情報を収集したり、取組の成果や課題を確認するために様々な主体が集まったりすることが、貴重なコミュニケーションの場と機会づくりになります。

## 2. 環境報告書の位置づけ

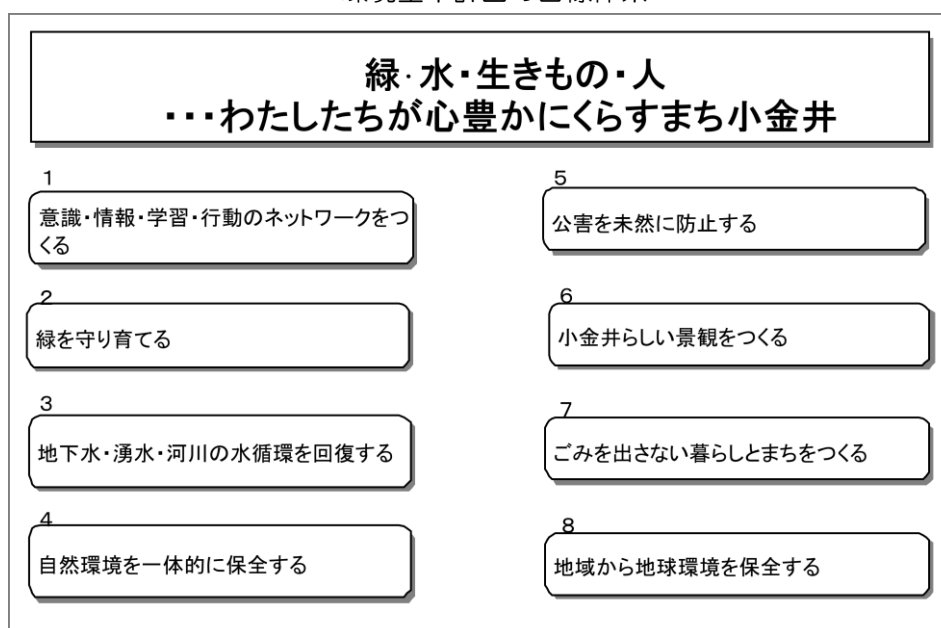
小金井市環境基本条例では、「環境基本計画」を策定すること、環境保全等の取組の実施状況を点検評価すること、「環境報告書」を毎年度作成・公表することなどを定めています。この環境報告書の位置づけは次のとおりです。

小金井市の環境保全等における環境報告書の位置づけ



また、環境基本計画に示された環境像（将来像）及び基本目標（分野別目標）は次のとおりで、この目標体系に沿って、取組の体系と方向が示されています。

環境基本計画の目標体系



小金井市環境基本条例より

(環境基本計画)

第9条 市長は、環境の保全等に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、市民参加により小金井市環境基本計画（以下「環境基本計画」という。）を策定しなければならない。

2 環境基本計画は、環境の保全等について、次に掲げる事項を定めるものとする。

- (1) 目標
- (2) 施策の方向
- (3) 環境基本計画の推進に必要な事項
- (4) 前3号に掲げるもののほか、環境の保全等に関する必要な事項

3 市長は、環境基本計画を定めたとき、又は変更したときは、速やかにこれを公表しなければならない。

(環境保全実施計画)

第11条 市長は、環境基本計画を推進するため、小金井市環境保全実施計画を策定するものとする。

(環境行動指針)

第12条 市長は、環境基本計画に沿って、市、市民及び事業者が、環境の保全等に資する行動をとるための環境行動指針を策定するものとする。

(点検評価の実施)

第21条 市は、本条例の理念に基づく環境の保全等の取組の実施状況を点検及び評価し、今後の取組に反映するよう努めなければならない。

2 事業者は、自らの事業活動に伴う環境への負荷の実態を把握し、その低減の取組を点検するよう努めるものとする。

(環境報告書)

第22条 市長は、環境の状況及び環境基本計画等に基づき実施された施策の状況を明らかにするため、毎年度環境報告書を作成し、これを公表するものとする。

### 3. 環境報告書の構成と内容

1、2に示した考え方に基づき、環境報告書は、次のような構成・内容としています。

#### 第1章 はじめに

この環境報告書のねらい、位置づけなどを示し、小金井市における環境の保全・回復・創造の取組の中で、本報告書がどのような役割を担っているのかを説明しています。また環境報告書をどのように作成するかについても説明しています。

#### 第2章 環境啓発事業

環境啓発事業は、市民及び市内事業者等を対象に、環境保全を啓発していくとともに、環境保全の目標を達成するために、持続可能な社会を構築して良好な地域環境を確保し、将来世代へ継承するための機運を醸成することを目的として行っています。

市役所が行っている環境啓発事業について報告します。

#### 第3章 基本計画の取組の進捗状況

環境基本計画第4章には、小金井市の環境の保全・回復・創造のために進めるべき取組の方向が体系的・網羅的に示されています。この体系に沿って、環境の状況や取組の状況を報告します。

上記の取組は、市が進める施策事業の計画を示す環境保全実施計画で示しています。

#### 第4章 小金井市の環境の状況

市の環境に関するデータを報告します。

#### 第5章 市役所としての取組

市役所は、自ら事業者として事務事業活動（オフィス活動や公共事業など）を行っています。市役所は率先して環境保全活動を進め、地域における事業者や市民の行動を促す責任があることから、市役所の活動に伴って発生する環境負荷の状況や、市役所が行っている環境負荷の軽減努力について報告します。

#### 第6章 環境基本計画の推進に関すること

環境基本計画では、計画を確実に実施していくために、第5章「計画の推進」で、様々な方法や手段を示しています。環境保全・回復・創造のための直接的な事業ではありませんが、これらの方法や手段が確実に実施され、効果的に運用されていくことは、地域の環境保全等を進めていくうえで大変重要です。そのため、環境基本計画に示されている計画の推進体制等について報告します。



### **第7章 点検評価結果**

環境基本計画に基づく環境保全等の令和元年度取組実績に対する環境審議会からの点検評価結果等を掲載します。

### **資料編**

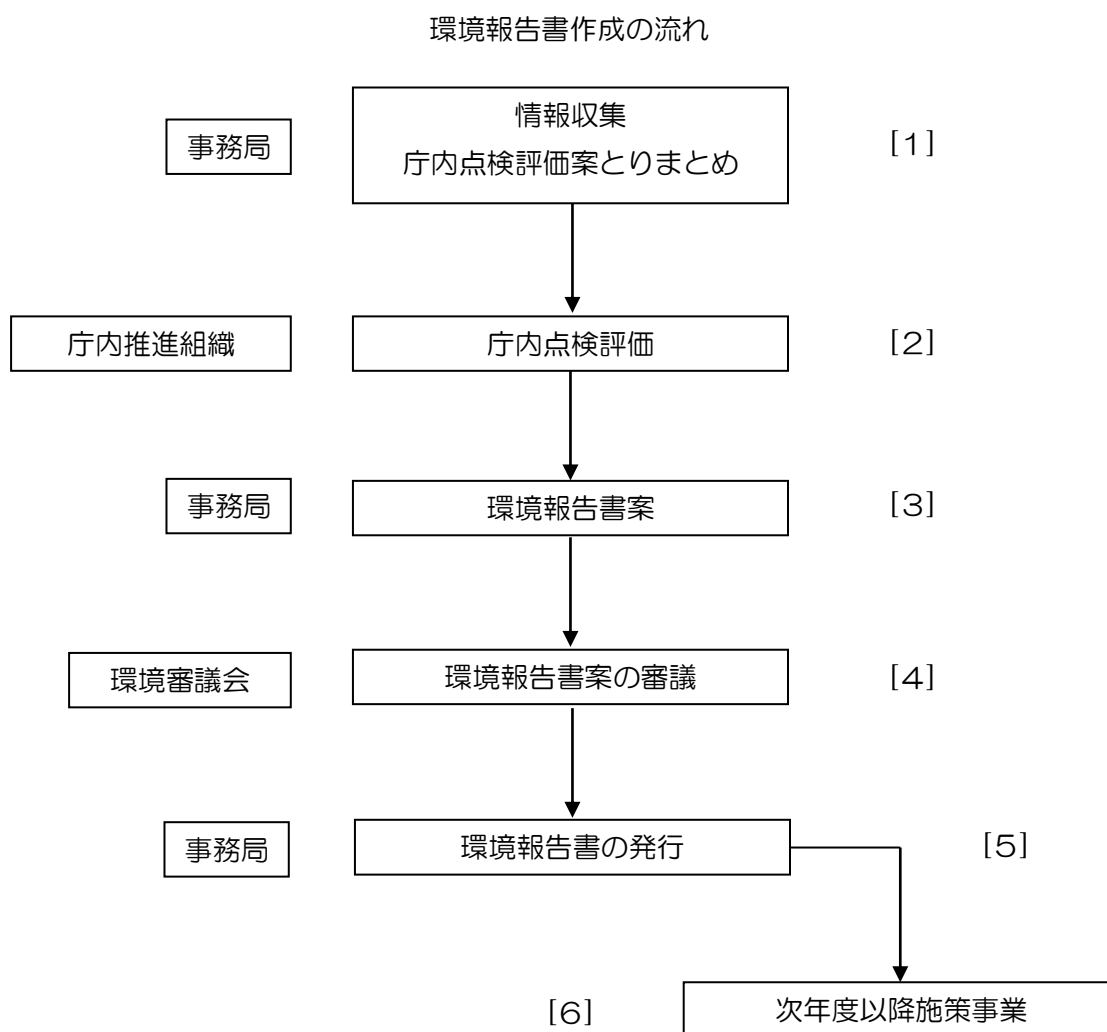
環境報告書本編に係る参考資料等を掲載します。

### **用語解説**

環境報告書に記載されている用語の解説です。

#### 4. 環境報告書の作成と報告書を活用した点検評価の仕組み

環境報告書の作成手順と、報告書を活用した環境基本計画の点検評価の仕組みは次のとおりです。



[1] 市（事務局：環境政策課）で、必要な情報を収集し、とりまとめます。

- 環境現況及び取組に関するデータ
- 市の各部局の施策事業の実施状況
- 重点的取組の進捗状況
- 市以外の市民団体、教育機関、事業者等の活動状況

- [2] [1]の報告を受けて、環境基本計画推進本部（庁内推進組織）で、環境基本計画に基づく取組の進捗を点検評価します。
- [3] 収集した情報と市の点検評価結果から、環境報告書案をまとめます。
- [4] 環境報告書案を環境審議会に提示し、環境審議会は、環境の状況や取組の実施状況を評価します。
- [5] 環境審議会の評価を反映させた環境報告書を発行します。
- [6] 環境審議会の評価結果を、市の各部局に伝え、各部局では次年度以降の施策事業に反映させます。

## 第2章 環境啓発事業

### 取組1

#### ○ 環境講座

##### 環境講座 藍の絞り染め

とき：令和元年6月29日（土）

会場：小金井市環境楽習館

主催：小金井市

企画：NPO法人こがねい環境ネットワーク

講師：笠原 淳子さん（染色研究家）

ジャパンプルーとして古くから愛用されてきた国産の藍を使ってカフェマットを染め、天然染料の歴史や藍の効能について学びました。

（参加者13名）

##### 食育講座 はじめてのゆるベジ～野菜を美味しく食べる秘訣・ピーマン編～

とき：令和元年7月11日（木）、7月21日（日）

会場：小金井市環境楽習館

主催：小金井市

企画：NPO法人こがねい環境ネットワーク

講師：櫻岡 美智子さん（ゆるベジインストラクター）

簡単な手順と最低限の調味料で卵や乳製品などを使わず野菜が美味しくなるレシピで、ピーマンを使った春巻きを参加者のみなさんと一緒に作りました。ピーマンが苦手だった参加者もいましたが、美味しく食べることができたとの感想もありました。

（参加者27名）



**環境講座 ドキュメンタリー映画「福島桜紀行」**

とき：令和2年3月14日（土）

会場：小金井市環境楽習館

主催：小金井市

企画：NPO法人こがねい環境ネットワーク

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりました。

**取組2**

○ 環境フォーラム

**こがねい環境フォーラム2019**

**「環境×防災～自然と手を取り合って生きていくために～」**

とき：令和元年11月23日（土）～24日（日）

会場：小金井市環境楽習館・JR 武蔵小金井駅南口コミュニティ広場・小金井市役所第二庁舎・公民館貫井北分館・宮地楽器ホール

主催：小金井市

企画運営：NPO法人こがねい環境ネットワーク・小金井市環境市民会議

協力：一般社団法人えねこや・NPO 法人緑のダム北相模・東京学芸大学附属小金井中学校・東京学芸大学環境教育研究センター・公益社団法人日本環境教育フォーラム・Musashino はけの森カフェ・てのひらストア otete



令和元年11月23日（土）・24日（日）に、こがねい環境フォーラム2019「環境×防災～自然と手を取り合って生きていくために～」を開催しました。連携企画を含め、様々なプログラムが実施されました。

◆JR 武蔵小金井駅南口コミュニティ広場

（荒天のためプログラムを一部中止・縮小して実施）

- ・地球を救う作戦会議@移動式えねこや

- ・ 間伐材の積み木で遊ぼう&ペン立てづくり
- ・ 川の資料館の紹介
- ・ 防災井戸・給水地点の紹介
- ・ ソーラークッカー・ソーラーミニパネルの展示
- ・ 一斗缶ストープの紹介
- ・ 雨水貯留施設（雨水タンク）の展示
- ・ フードコーナー
- ◆ 市役所第二庁舎
  - ・ 環境賞授与式
  - ・ 市民ワークショップ「未来に誇れるこがねいの環境を考えよう」
- ◆ 環境楽習館
  - ・ 各環境団体活動のポスター展示
- ◆ 連携企画
  - 公民館貫井北分館 若者による自主講座
  - 「気象予報士・防災士 平井信行さんのわくわく授業」
- ◆ プレ連携企画
  - 「循環型社会体験（エコベジタブル）教室」
  - 子供の権利条約10周年イベント 「20000個の積み木で遊ぼう！」
- ◆ スタンプラリー
  - 各会場にスタンプとカードを配布し、複数の企画をめぐる参加者に副賞を用意しました。

2日間と連携企画を含め延べ323人の参加者がありました。

### 取組3

#### ○ クリーン野川作戦

##### 第55回クリーン野川作戦

とき：令和元年5月25日（土）

会場：野川小金井新橋くじら山下原っぱ（本部）・野川くらおね橋

清掃区間：野川公園桜橋（三鷹市境）～野川くらおね橋（国分寺市境）

参加者数：218人

収集ごみ：可燃ごみ31kg、不燃ごみ46kg

主催：小金井市

運営：NPO法人こがねい環境ネットワーク、小金井市環境市民会議

後援：東京都北多摩南部建設事務所

協力：東京学芸大学環境教育研究センター

野川自然の会  
一般社団法人 JEAN  
Musasino はげの森カフェ  
東京川ガール  
東京経済大学



◆事業目的

小金井市内を流れる野川の清掃を通じて、参加者同士の交流と野川流域の環境保全を考  
えることを目的として開催されました。

◆当日の内容

スタッフは、午前8時30分に本部及び各コーナーに集合して、会場設営を行いました。

10時から市長の挨拶及び事務局からの清掃注意事項の説明のあと、清掃を開始しまし  
た。上流部の参加者は直接くらおね橋に集合しました。

【植物観察会】

本部周辺からやまべ橋河岸周辺で、葛原里山暮らし研究所の池竹則夫さんによる「植  
物観察会」を実施しました。親子参加が多く、植物の見分け方や特徴についての解説を  
行い、様々な植物に関する疑問に答えながらの観察会となりました。

【外来植物駆除】

本部周辺の中流部から下流部で、野川自然の会による指導のもと、他の植物に悪影響  
を及ぼすヤセウツボやオオカワヂシャ、オオブタクサを中心に駆除活動を行いました。

【環境啓発展示（マイクロプラスチック）】

本部前では東京学芸大学環境教育研究センターと協力し、大学生による展示「マイク  
ロプラスチックってな〜に？」を行いました。展示によって、マイクロプラスチックに  
よる海洋汚染と身近な川とのつながりを考えるきっかけになりました。

清掃や観察会を終えた参加者には、防災非常食のビスケットの配布、スターバックスコーヒー近隣店舗の協力によるコーヒーの提供を行いました。

#### 取組4

##### ○ 環境施設見学会

#### 環境施設見学会「そなエリア東京・しながわ防災体験館」

とき：令和2年2月26日（水）

場所：そなエリア東京・しながわ防災体験館

主催：小金井市

企画：NPO法人こがねい環境ネットワーク

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりました。

#### 取組5

##### ○ 小金井市環境賞

#### 小金井市環境賞

市では、小金井市環境基本条例が制定された、平成15年度を環境元年と位置づけ、環境活動に功績のあった市民、市内の団体または事業者の表彰を行っています。

令和元年度は、「土曜生ごみリサイクル連絡会」が受賞されました。

受賞理由は、10年以上生ごみのリサイクル受付等を実施し、ごみ減量・資源循環型社会の形成に寄与しているためです。

授与式は令和元年11月23日に開催した「環境フォーラム2019」内で行われました。

#### 小金井市環境賞受賞団体（者）一覧（過去10年間）

	年 度	受 賞 者(団体・個人)
第8回	平成22年度	法政大学環境系総合サークル「H・E・L・P！」
第9回	平成23年度	小金井を美しくする会
第10回	平成24年度	鏑山 英次さん
第11回	平成25年度	中田 啓子さん
第12回	平成26年度	小金井市環境市民会議
第13回	平成27年度	小金井自然観察会
第14回	平成28年度	該当者なし
第15回	平成29年度	山田 啓一さん
第16回	平成30年度	該当者なし
第17回	令和元年度	土曜生ごみリサイクル連絡会



## 第3章 基本計画の取組の進捗状況

以下の8項目からなる環境基本計画の基本施策に基づき、各課が進める事業を環境保全実施計画としてまとめ、実施・点検・評価を行っています。

本章では、年度終了後に各課より受ける事業の取り組み状況を、実績・自己評価（S：計画を超えて達成、A：計画どおりに達成、B：実施したが計画に未達、C：未実施）の順に掲載しています。なお、各課の環境保全実施計画には、まだ計画の段階にあるものを含みます。

### 1. 意識・情報・学習・行動のネットワークをつくる

環境学習や環境保全活動については、市民団体、大学・学校などの教育機関をはじめとして、様々な団体や機関が取り組んでいます。こうした様々な主体の連携を図り、環境学習をさらに深化させ、環境に対する意識の向上や情報の広報・共有化を推進します。また、市民・市民団体・教育機関・事業者及び小金井市が協力・協働して、小金井らしい創造的な環境保全行動を実践できる、仕組みづくりと機能を強化していきます。

こうした取組によって、「環境基本計画」の認知度を高め、市全体が目標達成に向けた行動を進められるよう、様々な機会を通じて環境学習を取り入れ、環境行動を促進していきます。

#### 【令和元年度の実績と今後の取組】

環境をテーマにしたイベントや講座の開催などにより、環境学習の推進や環境に対する意識向上に向けた取組を継続的にを行い、多くの市民の方に参加していただきました。

しかし、一部の取組では実施回数が前年度よりも減った、参加者が見込みよりも少ない等がありました。そのため、講座内容の見直し等を行い、環境学習の推進、環境に対する意識の向上、情報の共有に向け様々な主体との連携が図られた環境保全活動の更なる促進を目指します。

#### 1-1 環境学習の推進

・小金井市全体で環境学習を推進していくため、環境学習に携わっている教育関係者、研究機関、活動する団体や個人、行政、大学等の教育機関、公民館、環境楽習館などのネットワーク化と連携を強化し、市民・事業者の自主的活動・取組を支援する体制の充実を図ります。

・各々の主体が協働して、小金井市らしい環境学習プログラムをつくり、提供していきます。

・誰もが環境学習に取り組めるように、講師リストなどのデータベース化を促進し、利用しやすい情報発信・広報等を工夫していきます。

### 第3章 基本計画の取組の進捗状況

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	R元年度実施計画	R元年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
1-1-1 学習の場、人材、情報のネットワーク化と連携を強化する	小金井市全体で環境学習を推進するため、環境学習に携わっている教育関係者、研究機関、活動する団体や個人、行政、大学等の教育機関、公民館、環境学習館などのネットワーク化と連携を強化する。	環境フォーラムを継続して開催し、様々な主体から参加者を募る。	環境政策課	継続	環境フォーラムの開催（2日間・参加者323人）、環境市民会議への出席（毎月の運営会、総会1回等出席）等を通じて、連携とネットワーク化を進めた。	A
	市民・事業者の自主的活動・取組を支援する。	出前教室を開催するとともに、講師を派遣する。また、社会教育関係団体登録を充実させ、活用を促進する。	生涯学習課	継続	出前講座実施回数全24回。昨年に比べ実施回数が増えた。	B
1-1-2 環境学習の構想・計画を深化させ、推進する	各々の主体が協働して、小金井市らしい環境学習プログラムをつくり、提供していく。	環境学習に取り組む様々な主体の連携を図る。	環境政策課	継続	環境市民会議への出席（毎月の運営会、総会1回等出席）等を通じて、様々な主体の連携を図った。	A
	誰もが環境学習に取り組めるように、講師リストなどのデータベース化を促進して環境学習を行う人材を把握し、登録と提供の仕組みをつくり、利用しやすい情報発信・広報等を工夫する。	人材登録制度、講師リスト等を整備して人材、団体の把握に努め、市民、学校等の環境学習活動への派遣要請に対して紹介する。	環境政策課 生涯学習課 指導室	継続	環境市民会議への出席（毎月の運営会、総会1回等出席）、環境学習館での環境講座の開催（2回）等を通じて、人材、団体の把握に努めた。（環境政策課） 講師リストは備えているが、中々活用につながらない。（生涯学習課） 人材登録制度、講師リスト等を整備して人材、団体の把握に努め、市民、学校等の環境学習活動への派遣要請に対して紹介した。（指導室）	B
	環境学習関連資料の整備・提供をする。	環境関連の資料を収集し、テーマ展示等で一般利用者に紹介するとともに団体貸出等にも活用する。	図書館 指導室	継続	選書基準に基づき、環境政策に関する資料を収集し、提供している。（図書館） 学習内容に応じて、環境関連の資料を収集し、テーマ展示等を実施した。しかし、通年の授業の単元に合わせた展示等は実施していない。（指導室）	B
	体験学習や観察会・講座・講習会を開催する。	成人大学、成人学校、子ども体験講座の開催や、講演会等の開催を後援する。	公民館 環境政策課	継続	【本館】①「菜園教室」延べ843人、②「100年後の地球に引き継ぐ環境問題」延べ92人 【貴井南分館】「江戸野菜に親しもう」延べ802人 【東分館】①「ゼロから学ぶSDGs～地球を守るための17の共通目標を考える～」延べ96人、②「小金井と水～水の恵みを再考～」延べ39人 【緑分館】①「野川のいきもの観察」17人、②「浴恩館公園のいきもの観察」30人、③「庭木剪定入門」延べ110人、④「共働夢農園 野菜作りコース」延べ837人、⑤「共働夢農園 親子コース・とうもろこし作り」延べ115人 【貴井北分館】①「こがねいの若者の森と居場所づくり」延べ18人、②「気象予報士・防災士 平井伸行さんのわくわく授業」50人、③「新しい農ライフ 都市農業のすすめ」13人、④「きたまちセンターの花サポーター講座」延べ89人（公民館） 環境フォーラム（1回）、環境講座（2回）、クリーン野川作戦（1回）を開催したほか、講演会等を後援（13件）した。（環境政策課）	A
環境基本計画の周知・普及に努める。	ホームページによる周知のほか、環境フォーラム等で概要版を配布する。	環境政策課	継続	第二次小金井市環境基本計画の本編及び概要版をホームページで公開しているほか、環境フォーラム等の機会を利用して概要版を配布し、周知に努めた。	A	
環境学習に食育の視点を取り入れて推進する。	野菜・団らん・ふれあい・環境をキーワードに「小金井らしい食生活」のあるひとつづくり・まちづくりを、「Koganei-Style」として地域に展開していく。	健康課	継続	Koganei-Styleの地域展開を目指し、市民ボランティアで運営している小金井市食育ホームページにおいて、広く市民に普及啓発を行った。編集委員会 年11回実施	A	

1-2 パートナリシップ・ネットワークづくり

- ・市民、事業者、市など様々な主体の環境活動をつなぎ、小金井らしい創造的な環境保全活動を活性化し大きくしていきます。
- ・環境市民会議等を通じた団体間のコミュニケーションの促進を図るとともに、様々な主体がパートナーシップに基づき、連携を強化し、協働して活動を展開していきます。
- ・ネットワークづくりのためのコーディネート機能を強化し、市が自らコーディネート機能を担います。
- ・活動を推進するため、リーダー・コーディネーター・ファシリテーターなどの人材育成を支援し推進します。
- ・町会・自治会などの地域コミュニティの中で、人と人との絆を深めることによって環境保全活動の推進を図ります。
- ・地域コミュニティ独自で、または市民活動団体との連携を深化させることによって、新たな取組を創出していきます。
- ・小金井市の環境や暮らしが、広域的なつながりの上に成り立っていることを踏まえ、広域的な連携を強化し、環境保全に取り組んでいきます。

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	R元年度実施計画	R元年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
1-2-1 環境保全活動のネットワークとコーディネート推進	市民、事業者、市などさまざまな主体の環境活動をつなぎ、小金井らしい創造的な環境保全活動を活性化していく。	環境フォーラムの開催等を通じてさまざまな団体の交流の輪を広げ、情報共有・意見交換を行う。	環境政策課	継続	環境フォーラムの開催（2日間・参加者323人）等を通じて市内環境団体や大学との交流の輪を広げた。	A
	環境市民会議等を通じた団体間のコミュニケーションの促進を図るとともに、様々な主体がパートナーシップに基づき、連携を強化し、協働して活動を展開する。	環境講座、環境学習会、環境フォーラム、施設見学会等を様々な主体の協働で開催する。	環境政策課	継続	環境フォーラム（1回）、環境講座（2回）、クリーン野川作戦（1回）を開催した。	A
1-2-2 市・市民・事業者の協働を推進する	ネットワークづくりのためのコーディネート機能を強化する。	市内の大学や環境団体との連携とネットワーク化の強化に協力する。	企画政策課 コミュニティ文化課 環境政策課 生涯学習課	継続	既に協定を締結済みの6大学等（学芸大、農工大、法政大、亜細亜大、武蔵野大、総合学院テクノスカレッジ）と継続して連携している。 （企画政策課） こがねい市民活動団体リストの更新（コミュニティ文化課） 環境市民会議への出席（毎月の運営会、総会1回等出席）等を通じて、様々な主体の連携を図った。 （環境政策課） 小金井市、小平市、国分寺市と学芸大学子ども未来研究所で連携して、3市連携講座を実施している。小金井市では全5回実施した。そのうち、放課後子ども教室の運営に関する講座は参加者が少なかった。 （生涯学習課）	B
1-2-3 地域コミュニティを活性化	地域コミュニティの中で、人と人との絆を深めることによって環境保全活動の推進を図り、また、地域コミュニティ独自で、または市民活動団体との連携を深化させることによって新たな取組を創出する。	地域コミュニティを基盤とした環境活動の支援、地域コミュニティと市民活動団体との連携に協力する。	環境政策課	継続	環境団体等を対象に環境基本計画策定に係るアンケート調査を実施したが地域コミュニティとの連携に至らなかった。	B
1-2-4 広域的な連携を推進する	広域的な連携を強化し、環境保全に取り組んでいく。	環境に関連した各種協議会に参加するとともに、周辺地域（近隣自治体等）へ環境フォーラム等の開催案内を発信する。 また、野川流域の自治体や環境団体などとの交流に協力する。	環境政策課	継続	東京都環境・公害事務連絡協議会（年6回開催。東京都環境局担当課長職者、多摩26市環境政策担当部署課長職者、係長職者出席）等への参加を通じて他市と連携し、積極的な情報交換を行った。 また、野川流域連絡会などを通じて、野川流域の自治体や環境団体とも連携した。	A

1-3 情報の積極的な活用

- ・環境情報を継続的に収集し、データベース化を進め、あらゆる主体が活用しやすい形で公開・提供する仕組みづくりを推進していきます。
- ・「環境基本計画」の認知度を高め、市全体が目標達成に向けた行動を進められるよう、様々な広報手段によって、あらゆる主体に情報提供を行っていきます。
- ・「環境基本計画」の認知度・理解度を向上させるため、誰もが利用しやすい効果的な情報発信・広報など様々な手段について、時期・場所・方法等を工夫していきます。
- ・市民のライフスタイルの多様化にあわせた効果的な情報発信の方法について検討していきます。
- ・多くの市民・事業者が小金井市の環境に興味を湧くような情報の提供によって、環境活動が始まる手助けを強化していきます。

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	R元年度実施計画	R元年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
1-3-1 環境情報を収集・整備し、提供する	環境情報を継続的に収集し、データベース化を進め、あらゆる主体が活用しやすい形で公開・提供する仕組みづくりを推進する。	ホームページに掲載する情報については、クイックインテックス等を利用し、利用者から見やすい環境整備を進める。	環境政策課	継続	環境フォーラム、環境施設見学会、環境講座、クリーン野川作戦、田んぼの時間、大気汚染情報、放射能関連情報等をホームページ等で情報発信した。	A
	環境基本計画の認知度を高め、市全体が目標達成に向けた行動を進められるよう、様々な広報手段によって、あらゆる主体に情報提供を行っていく。	ホームページ・公民館・図書館などの市施設に加え、JR駅などにも広報紙を設置し、より広く市政情報の提供に努める。	環境政策課 広報秘書課	継続	環境フォーラム等の機会を利用して概要版を配布し、周知に努めた。 （環境政策課） 広報紙は例年通り、月2回計24回発行し、いずれの号も市施設およびJR両駅に設置した。 また、ホームページについては、従来のPDF版だけではなく、視覚障害者向けに、市報が音訳された「声の広報」も掲載している。 （広報秘書課）	A
1-3-2 効果的な情報発信を工夫する	環境基本計画の認知度・理解度を向上させるため、効果的な情報発信・広報など様々な手段について工夫する。	環境フォーラム・環境講座等を通じて環境基本計画に関する情報発信を行うとともに、概要版の配布等によって認知度・理解度を高める。	環境政策課	継続	環境フォーラム等の機会を利用して概要版を配布し、周知に努めた。	A
	市民のライフスタイルの多様化に合わせた効果的な情報発信を検討する。	ホームページ等で情報発信する。	環境政策課	継続	環境保全に関する様々な情報、市主催の環境啓発イベントの告知等を、ホームページ、市報、チラシの広報掲示板への掲示及び公共施設への設置等で情報発信した。	A
1-3-3 情報を行動に結びつけるコーディネートを推進する	市内の自然環境や生きものに関する情報を提供する。	湧水調査をし、結果を環境報告書等に記載する。	環境政策課	継続	4か所、年2回6月、12月に実施した。	A
	環境行動指針を普及、啓発する。	ホームページでの周知及び環境関連のイベント時に概要版を配布する。	環境政策課	継続	環境フォーラム等のイベント時に希望する市民へ配布した。	A
	市民・事業者が小金井市の環境に興味を湧くような情報の提供によって、環境活動が始まる手助けを強化する。	団体と協働して、催事場等での啓発グッズの配布を行う。また、商工会等を通じて、事業者への環境基本計画の周知を図る。	環境政策課	継続	環境フォーラム等のイベントの際に、環境基本計画の概要版などの配布を行った。	A
	市民団体等が保有する環境情報を集約する仕組みづくりに取り組み、協働・連携して活動に取り組む主体間での情報共有を図る。	環境活動を行う団体間のネットワークの構築を目指す。	環境政策課	継続	環境フォーラム、環境講座、クリーン野川作戦等の開催を通じて、環境活動を行う団体間のネットワーク構築に寄与した。	A

## 2. 緑を守り育てる

小金井市は、国分寺崖線（はけ）と一体となった樹林地、玉川上水、小金井公園をはじめとする幾つもの公園、また農地、屋敷林など緑に恵まれています。

しかし、農地・屋敷林などの緑は減少を続けており、将来的に緑豊かな小金井を継承していくためには、いくつもの課題があります。減少が続く農地・屋敷林などの緑は、あらゆる方策を活用しながら小金井市全体の財産として残していかなければなりません。

また、公園や樹林地を適切に管理し、緑の質を向上させることが重要です。

緑には、良好な景観形成、水循環の保全、生きものの生息場所の提供、気温上昇抑制などの気候緩和をはじめ多面的な機能があり、他の基本目標にも関わっています。すべての主体が協力し合って、大切な緑を保全・回復していきます。加えて、「第4次小金井市基本構想」の『みどりと環境プロジェクト』－【みどりの創出】に取り組んでいきます。

### 【令和元年度の実績と今後の取組】

みどりの基本計画策定に伴い、10年ぶりに緑の現況調査を実施しました。その結果、緑被率（緑被地が市域に占める割合）は平成21年度からの10年間で33.7%から30.2%に減少していることがわかりました。緑の保全及び維持管理のため、小金井市緑地保全及び緑化推進条例に基づく環境保全緑地等の制度を活用していきます。

また、農家の後継者不足や、令和4年度に多くの生産緑地がいつでも買取り申し出が可能になることにより、農地の減少も見込まれることから、特定生産緑地制度や生産緑地を円滑に貸借できる制度の説明を農業従事者等に行う等、都市農地の保全を図り、小金井市にふさわしい緑の保全、創出に努めていきます。

### 2-1 緑の保全

- ・小金井市の特徴ある景観を形成している崖線と緑地は、地形と一体で保全していきます。
- ・大規模な公園緑地などの永続性が保証された緑地については、適切な管理や整備を継続していきます。
- ・所有者の理解を得ながら、ヒートアイランド現象の緩和や火災等に対する減災の面からも見直されている農地や屋敷林等の私有地の緑を保全していきます。
- ・私有地の緑の保全に効果のある既存制度の活用に加えて、支援のあり方を検討していきます。
- ・緑の現状について、継続的な把握・広報等に努め、市民などに緑の保全の重要性を理解してもらう啓発活動を推進していきます。
- ・小規模な公園などで、適切な管理が必要なところについては、市民参加による公園などの管理（アダプトプログラム）を普及・啓発していきます。
- ・公共施設敷地内への植樹を推進するとともに、民間の大規模施設においても事業者の理解を得ながら緑化を促進し、新しく緑を増やしていきます。

### 第3章 基本計画の取組の進捗状況

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	R元年度実施計画	R元年度実績（具体的な数値・実施内容等）
2-1-1 永続的でまとまった緑地を保全する	緑の基本計画の推進等により、小金井市の特徴ある景観を形成している崖線やまとまった緑地を地形と一体で保全する。	国分寺崖線の緑が面的に確保されるように努め、緑と景観、湧水の保全が図られるようにする。	環境政策課	継続	国分寺崖線の公共緑地の維持管理をし、緑と景観の保全を図った。特に滄浪泉園の樹木について健全育成を図るための適正な剪定を行った。
	大規模な公園緑地などの永続性が保証された緑地について、適切な管理や整備を継続していく。	安全性を保ち、快適に使用できるように管理に努める。	環境政策課	継続	危険樹木の伐採や定期的に剪定等を行い、維持管理に努めた。
2-1-2 民有地の緑を保全する	所有者の理解を得ながら、ヒートアイランド現象の緩和や火災等に対する減災の面からも見直されている農地や屋敷林等の民有地の緑を保全していく。	保全緑地活用、市民緑地制度を検討する。	環境政策課 農業委員会	継続	環境緑地・公共緑地の減少はなかった。保存樹木は4件65本、保存生垣3件412mを新規で指定した。平成31年1月より特定生産緑地の指定申請を開始し、市内の農地の長期的な保全を図った。79人より申請。 (環境政策課) ■農家支部別座談会 特定生産緑地制度について、1月27日から31日までの5日間に実施した座談会（11支部・計122人）や農業委員による個別訪問を通して説明・周知した。 (農業委員会)
	民有地の緑の保全に効果のある既存制度の活用に加えて、支援のあり方を検討していく。	保存樹木指定・保存生垣指定制度を啓発し活用する。	環境政策課	継続	保全緑地制度の案内を作成し、市内大学や寺社等に周知活動を行い、新規に65本の保存樹木の指定をした。
2-1-3 緑を適切に管理し、活用を推進する	緑の現況に関する調査をする。	緑の現況把握調査を継続する。また、基礎データの蓄積を図り、緑化に関する普及・啓発に活用する。	環境政策課	継続	みどりの基本計画策定に伴い基礎調査を実施した。
	緑の現状について、継続的に把握し、広報等に努め、市民などに緑の保全の重要性を理解してもらう啓発活動を推進する。	住民・事業者に緑の実態を広報し、保有者に対して保全を働きかける。	環境政策課	継続	事業者への広報には至らなかったが、保全緑地制度の広報を含め継続して保有者に対し、緑の保全を働きかけた。
	宅地開発等指導要綱により緑地を保全する。	まちづくり条例に規定する指定開発事業を行う場合、敷地面積の3%又は6%の緑地・公園を設置する。	まちづくり推進課 環境政策課	継続	指定開発事業の同意協議において、宅地開発等指導要綱に基づき公園緑地の設置を指導した。 3%の公園緑地：1件
	市民や専門家と連携し、緑地の保全・整備方針を検討する。	緑地保全対策審議会での検討や環境市民会議との連携など多面的な連携を進めていく。	環境政策課	継続	保全緑地の指定やみどりの基本計画策定のため、緑地保全対策審議会を3回開催した。
	小規模な公園などで、適切な管理が必要などところについては、市民参加（ボランティア）による公園等の管理（アダプトプログラム）を普及・啓発する。	市民参加による公園等の管理を検討し、清掃、剪定、花壇の維持等をボランティアの協力を得て推進する。	環境政策課	継続	花壇ボランティア6団体、公園美化サポーター21団体、剪定ボランティア1団体が活動を行った。
	市民緑地制度の活用の可能性を検討する。	土地所有者の要望に基づき緑の基本計画の緑地の保全の施策に沿うものを検討する。	環境政策課	継続	みどりの基本計画の施策に沿った内容を検討した。
	公共施設敷地内への植樹を推進するとともに、民間の大規模施設においても事業者の理解を得ながら緑化を促進し、新しく緑を増やしていく。	公共施設の建設・改修工事の際には緑化を促進する。また、民間の大規模施設においては環境配慮指針によって緑地等の確保に向けた指導を行う。	関係各課	継続	公共施設に苗木供給制度を活用して2893本の苗木を7施設に植樹した。民間の大規模施設は開発面積に応じて、環境配慮指針に則り公園緑地等の設置を指導した。 (環境政策課)
	雑木林の保全を継続する。	環境緑地・公共緑地を継続して保全する。	環境政策課	継続	環境緑地：47,795.21㎡ 公共緑地：4150.76㎡

## 2-2 緑の創造

- ・減少傾向にある緑を確保するため、緑の連続性に配慮した新たな公園緑地の確保や、まちづくり施策の中でも、計画的な公園整備を進めていきます。
- ・敷地や建物の緑化などを積極的に推進するために、助成などの啓発活動を実施していきます。
- ・緑を創造する取組にあたっては、緑の連続性、水との一体性の確保、在来種による緑化など地域の生態系に望ましい植物選びなどに配慮していきます。

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	R元年度実施計画	R元年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
2-2-1 新たな公園緑地等を確保する	減少傾向にある緑を確保するため、緑の連続性に配慮した新たな公園緑地を確保する。	公園整備事業によって緑地を継続して確保する。	環境政策課	継続	貴井げやき公園の一部土地（315.95㎡）を取得した。	A
	まちづくり施策の中で、計画的な公園整備を進めていく。	土地区画整理事業で、適切な公園整備を図る。	区画整理課	継続	なし	C
2-2-2 緑化を推進する	沿道や遊歩道などの植栽や街路樹など連続性をもたせるようなまちづくりをする。	都市計画道路の整備に当たっては、歩道に植樹帯等を設け、街路樹を植栽する。	道路管理課	継続	都市計画道路3・4・12号線 サツキ1,920株、ハナミズキ55本を植樹した。 都市計画道路3・4・3号線 サツキ330株、常緑ヤマボウシ24本を植樹した。 都市計画道路3・4・14号線 植栽部なし 一部計画通りに達成した。	B
	敷地や建物の緑化などを積極的に推進するために、助成などの啓発活動を実施していく。	生け垣造成奨励金により助成する。	環境政策課	継続	市報で年2回の周知を行ったが、新規の生け垣造成の申し出はなかった。	B
	公共施設の整備にあたっては、敷地などの緑化を推進する。	公共施設の建設・改修工事の際には緑化を促進する。	関係各課	継続	令和元年度東京都苗木生産供給事業の随時（スポット）供給 第二庁舎入口付近の植樹を植替えるため、サツキの苗木124本の供給を受ける（12/13実施） （管財課）	A
	緑を創造する取組にあたり、緑の連続性、水との一体性の確保、在来種による緑化など地域の生態系に望ましい植物選びなどに配慮する。	指定開発事業にあたって、都策定の「植栽時における在来種選定ガイドライン」を参考にし、緑化の協議を行っている。	環境政策課	継続	指定開発事業における緑化は「植栽時における在来種選定ガイドライン」を参考に指導した。	A
	大型店舗や集合住宅などの駐車場等の緑化を促す。	指定開発事業にあたっては、小金井市環境配慮計画書の提出を事業者に求め緑化を促す。	環境政策課	継続	小金井市環境配慮指針に従い敷地面積から建物面積を除いた面積の20%以上の宅地内緑化を指導した。	A

## 2-3 まちづくりにおける農の活用

- ・農業者や農業団体、市民などが連携して、まちづくりに農を位置付け、農業者が長期的な展望とやり甲斐を持って農業を続け、市民も緑の保全、地下水涵養、地産地消の新鮮で安心なおいしい食材の確保、土にふれる機会を得るなどの様々な恵みを楽しむようにします。
- ・農業者と一般市民とが顔の見える関係を大切にしながら、農業の担い手の支援や援農、交流を活性化し、営農の難しい農地は市民農園や体験型市民農園として存続に取り組みます。
- ・生物多様性と文化多様性の保全の観点から極めて重要な農作物や園芸作物の在来品種の保存に取り組んでいきます。
- ・小金井市の食料自給率を高める役割に加えて、農産物の流通による環境負荷の低減に寄

### 第3章 基本計画の取組の進捗状況

与するため、野菜等の農作物の地産地消を促進させ、農地の保全・維持と地域の食文化の保全を推進します。

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	R元年度実施計画	R元年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
2-3-1 農地を保全・活用する	農業者や農業団体、市民などが連携して、まちづくりに農を位置づけ、農業者が長期的な展望とやり甲斐を持って農業を続け、市民も緑の保全、地下水涵養、地産地消の新鮮で安心なおいしい食材の確保、土にふれる機会を得るなどの様々な恵みを享受できるようにする。	認定認証農業者に対する補助制度の充実や、東京都の都市農業に関する補助制度を積極的に活用し、長期的かつ安定的な農業経営の確立を目指す。	経済課 農業委員会	継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>■認定・認証農業者支援 申請数：8農家 執行額：2,982千円</li> <li>■都市農業活性化支援事業 申請者：0件</li> <li>■簿記講習会 開催数：8回 参加者：延べ36人</li> </ul>	B
	農業の担い手の支援・育成をする。	年間を通じ簿記講習会等を行い、農業経営の効率化を図る。 認定農業者となった者から担い手支援を図っていく。	経済課 農業委員会	継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>■認定・認証農業者支援 申請数：8農家 執行額：2,982千円</li> <li>■都市農業活性化支援事業 申請者：0件</li> </ul>	B
	生産緑地を保全する。	都市計画公園と重複している箇所は、積極的な取得に努め、公園として整備を図る。生産緑地法等の改正に伴い生産緑地地区の指定基準が緩和されたため、農業者に積極的に周知を行い、追加指定による生産緑地地区の増加を図る。また、「都市農地の貸借の円滑化に関する法律案」が成立し、貸借が可能となった場合は、農園の開設等の対策を講じ保全していく。	環境政策課 農業委員会	継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>■生産緑地の保全 買取り申出：8件（内買取り：0件） 削除件数：18件（22,520㎡） 追加件数：5件（2,210㎡）</li> <li>■都市農地の貸借の円滑化に関する法律による市民農園の開設 1園990㎡ （環境政策課・農業委員会）</li> </ul>	A
	農地の保全に関する先進事例を調査・研究し、農地の保全・活用方策を検討する。	都市農地を有する自治体で構成する都市農地保全推進自治体協議会にて、都市農地の保全・活用の調査・研究を推進する。また、「都市農地の貸借の円滑化に関する法律案」成立後の具体的な方策について検討していく。	経済課 農業委員会	継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>■都市農地保全自治体フォーラムの開催</li> <li>■都民に対し、新鮮な農産物や加工品等を販売し、都市農地の重要性を訴えた。</li> </ul>	A
	農業者と一般市民とが顔の見える関係を大切にしながら、市民と農業者の連携による援農、交流を活性化させる。	体験型市民農園を通じ、農業への理解と興味を育み、農業者と市民との交流を深める。また、平成29年度から本実施となった援農ボランティア事業を活用し、担い手不足等の課題を解決していくとともに市民と農業者の連携、交流を図っていく。	経済課 農業委員会	継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>■体験型市民農園 農園数：2農園 区画数：90区画 面積：4,489.46㎡</li> <li>■援農ボランティア 公益財団法人東京都農林水産振興財団が実施する地域援農ボランティア養成事業認定者数1人</li> </ul>	A
	営農の難しい農地を市民農園や体験型市民農園として存続に取り組む。	引続き農園事業に取り組む。また、「都市農地の貸借の円滑化に関する法律案」が成立し、生産緑地の貸借が可能となれば、生産緑地においても市民農園の開設が可能となるため積極的に営農困難な農地を農園事業として活用していく。	経済課	継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>■市民農園 農園数：4農園 区画数：164区画 面積：3,070.37㎡ 内容：市民が園芸を通じて土に親しみ、生産の喜びを味わうなど余暇生活の実現に貢献した。</li> </ul>	A
	農業や化学肥料の使用を抑えた環境保全型農業事業を促進する。	東京都工コ農産物認証制度を利用し、減農薬と減化学肥料に取り組む。	経済課 農業委員会	継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>■東京都工コ農産物 支部別座談会において制度説明等を行ったが、制度を活用した農家はいなかった。</li> </ul>	B
2-3-2 農作物や園芸植物の在来品種を保全する	生物多様性と文化多様性の保全の観点から極めて重要な農作物や園芸作物の在来品種の保存に取り組む。	農業祭や料理教室等のイベントを通じ江戸東京野菜のPRを行う。また、江戸東京野菜生産農家と市内飲食店を結びつけ、飲食店において使用できる環境整備を行う。	経済課 農業委員会	継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>■江戸東京野菜を使った料理教室 開催回数：2回 参加人数：22人</li> <li>■農業祭での江戸東京野菜のPR展示</li> </ul>	A



環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	R元年度実施計画	R元年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
2-3-3 食糧の自給と安全性を確保する	農家・大学・市民団体が連携し、地場産の農作物と食文化や地域行事との関わりを伝承していく。	農家・大学・市民団体が共に取り組めるイベント等を模索する。	経済課 農業委員会	継続	■農業祭 農家の販売ブースや、商工会等の団体ブースの設置。市内公立小学校児童を対象とした農業絵画コンクールの開催。	A
	小金井市の食料自給率を高める役割に加えて、農産物の流通による環境負荷の低減に寄与するため、地場野菜の利用・流通支援等により野菜等の農作物の地産地消を促進させ、農地の保全・維持と地域の食文化の保全を推進する。	一日生活教室を通じ、地場野菜を使った料理講習会を引き続き実施していく。また、学校給食の地場野菜の導入率を高めるため、米農士と農家の打合せ等の調整について協力する。	経済課 農業委員会	継続	■料理講習会 開催回数：1回 参加人数：26人	A

### 3. 地下水・湧水・河川の水循環を回復する

小金井市の自然環境の第一の特徴は、野川、玉川上水などの豊かな生態系や景観を形成する水辺環境です。中でも野川は、水のきれいさと親水性を考慮した河川整備により、市民の憩いの場所であるとともに市民の環境保全活動の拠点になっています。

一方、都市化の進展は、水循環に大きな影響を与えています。例えば、湧水を源流とする川になった野川は、雨が少ないと瀬切れが発生することがあり、流量の減少は大きな課題となっています。また、一定量以上の降雨時には、下水道からの越流水が野川に排水されるため、水質に悪影響を及ぼすという問題が残されています。

今後も、引き続き地下水・湧水・河川のモニタリングを継続するとともに、市民等の地下水に関する関心や理解をさらに深めていきます。また、市民・事業者等とともに水辺のあり方や水利用のあるべき姿を考え、水循環の回復・実現に向けて連携を強化して、協働による取組を進めていきます。

#### 【令和元年度の実績と今後の取組】

定期的な地下水・湧水の水質モニタリングを継続して行い、ほぼ例年通りの結果を得ました。地下水水位測定については、平成30年度に調査対象地点の選定等を行い、令和元年度から市内11か所の地下水水位測定を開始しました。また、地下水保全会議では地下水及び湧水の保全・利用に係る計画策定に伴い水収支の分析を行いました。

今後も引き続き、地下水・湧水の現状把握に努めるほか、開発事業等に際しては、専門家の知見を得ながら市街地化と共存した地下水・湧水・河川の保全に努めていきます。

#### 3-1 地下水・湧水に関する現況把握

- ・定期的な地下水・湧水の水質モニタリングを継続していきます。
- ・市民・大学等の研究機関との連携を強め、定期的・継続的なモニタリング体制を充実していきます。
- ・地下水・湧水についての情報を収集・整理し、情報提供していきます。

### 第3章 基本計画の取組の進捗状況

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	R元年度実施計画	R元年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
3-1-1 地下水・湧水の現況を把握する	地下水水質の定期的な調査・監視をする。	定点での定期的な水質の検査をする。	環境政策課	継続	13か所、年4回7月、9月、11月、2月に実施した。（調査結果は47ページに掲載）	A
	定期的な湧水調査をする。	3か所の湧水調査を行っている。	環境政策課	継続	4か所、年2回6月、12月に実施した。（調査結果は48ページに掲載）	A
	定期的・継続的なモニタリングを可能にするため市民・研究機関等との連携など必要な仕組みを整える。	環境市民会議や東京都土木技術センターの井戸・湧水調査と連携・協力を行う。	環境政策課	継続	市内11か所の地下水位測定を12回行った。（調査結果は48ページに掲載）	A
3-1-2 地下水・湧水についての情報を蓄積し、提供する	地下水・湧水についての情報収集・整理・分析を行い、調査データを蓄積してホームページ等で情報発信する。	井戸14地点湧水1地点の水質測定を年4回行い、地下水保全会議等を通じて結果を分析している。	環境政策課	継続	井戸13か所年4回、湧水4か所年2回の水質測定を実施した。また、地下水保全会議（年3回10月、12月、2月実施）では、水収支の分析を行った。（調査結果は47、48ページに掲載）	A

### 3-2 地下水・湧水の保全

- 地下水・湧水を保全するため、さらなる雨水浸透ます等の設置の促進や、道路の雨水浸透性舗装の採用等の取組を推進していきます。
- 雨水貯留施設（雨水タンク）設置等の市民・地域の取組の支援を継続していきます。
- 地下構造物の建設によって、地下水の流れに影響が出ないように、「小金井市の地下水及び湧水を保全する条例」に基づき、工事等による地下水への影響をチェックしていきます。
- 定期的な地下水の水質モニタリングにより、地下水質に影響のおそれのある事業活動等に対する監視・規制や指導を徹底していきます。

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	R元年度実施計画	R元年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
3-2-1 地下水位を確保する	地下水・湧水を保全するため、雨水浸透施設等設置を促進する。	市民に設置に係る支援の情報を広報して設置の協力をお願いし、昭和63年8月以前の建築物を既存建物とし、助成金を交付する。	下水道課	継続	市民に設置に係る支援の情報を広報して設置の協力をお願いし、昭和63年8月以前の建築物を既存建物とし、助成金を交付した。申請件数2件・浸透ます4個	B
	地下水・湧水を保全するため道路の雨水浸透性舗装の採用を推進する。	歩道舗装を透水性舗装にすることで、道路雨水の浸透を促進する。	道路管理課	継続	市道1号線に透水性アスファルト31㎡を舗装した。 都市計画道路3・4・3号線に透水性ILB1,540㎡を舗装した。 都市計画道路3・4・12号線に透水性ILB344㎡を舗装した。	B
	雨水タンク設置を支援し、促進する。	雨水貯留施設設置費補助制度の広報に努め、設置率の向上を図る。	環境政策課	継続	引き続きホームページに掲載し、市報で情報提供を行った。また、フォーラム等でのチラシ配布を行った。2件 41,830円	B
3-2-2 地下水脈の分断を防止する	地下構造物の建設によって、地下水の流れに影響が出ないよう、地下水及び湧水を保全する条例に基づく地下水影響工事に係る書類を提出させ、工事等による地下水への影響をチェックしていく。	開発事業等による地下水への影響について、ボーリング調査データ等から状況を把握するとともに、提出された書類に基づき地下水保全会議の意見を聴き、必要に応じて地下水への配慮を求めるとして影響の未然防止に努める。	環境政策課	継続	地下水への影響が懸念される開発事業等については、事業者によるボーリング調査データ、杭状図などの資料の提出を依頼し、提出を受けた書類を元に地下水保全会議に意見を伺った。また、必要に応じて地下水影響工事の届出の提出を依頼している。（令和元年度0件）	A
3-2-3 地下水質を保全する	定期的な地下水の水質モニタリングにより、地下水質に影響のおそれのある事業活動に対する監視・規制や指導を徹底していく。	井戸14地点湧水1地点の水質を年4回測定することによって水質監視を継続するとともに、開発工事事業者・市民等に地下水保全条例の周知を継続する。	環境政策課	継続	水質測定を井戸13か所は、年4回7月、9月、11月、2月に、湧水4か所は、年2回6月、12月に実施した。また、開発における工事には、小金井市の地下水及び湧水を保全する条例を周知した。（調査結果は47、48ページに掲載）	A

### 3-3 河川環境の保全

- ・市民・行政・専門家等が協働し、都や流域自治体などへも働きかけながら、野川をはじめとする河川において、流量を安定的に確保する取組を推進していきます。
- ・生活排水の流入がなくなり、改善された野川の水質を今後も良好な状態のまま保ちます。
- ・一定以上の降雨時における下水越流水の河川流入による水質汚濁の防止に努めます。
- ・研究機関や市民団体と協働で、流量減少による生物への影響把握や保全・回復に向けた検討を進めます。

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	R元年度実施計画	R元年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
3-3-1 河川流量の安定的な確保に向けて協働する	市民・行政・専門家等が協働し、都や流域自治体などへも働きかけながら、野川をはじめとする河川において、流量を安定的に確保する取組を推進する。また、雨水浸透や雨水貯留による節水等の取組を促進させる。	雨水や用水の導入等、河川流量を増やす方策を検討する。助成金や設置費補助制度により雨水浸透ますや雨水貯留施設の設置を促進する。	環境政策課 下水道課	継続	■雨水貯留施設 2件、41,830円（環境政策課） 雨水浸透ますについて、昭和63年8月以前の既存建築物に設置する場合、助成金を交付した。申請件数2件・浸透ます4個（下水道課）	B
3-3-2 河川水質を良好に保つ	生活排水の流入がなくなり、改善された野川の水質を今後も良好な状態のまま保つ。	市民・事業者・市民団体等と行政が協働して、河川の一斉清掃などを定期的実施する。	環境政策課	継続	5月に市民218人を集め、クリーン野川作戦を実施した。また、6月と11月に野川の水質調査を実施した。（調査結果は46ページに掲載）	A
	一定以上の降雨時における下水越流水の河川流入による水質汚濁の防止に努める。	道路上に雨水浸透ますを設置することにより、下水管さよへの雨水流入を抑制していく。	下水道課	継続	浸透ます設置0箇所	C
	研究機関や市民団体と協働で、流量減少による生物への影響把握や保全・回復に向けた検討を進める。	関係する近隣市や関係機関と協力して、河川等の再生に取り組む。	環境政策課	継続	野川流域連絡会、野川流域環境保全協議会、多摩川流域協議会などを通じて、近隣市や関係機関と連携して取り組んだ。	A

### 3-4 地下水・湧水生態系の保全

- ・崖線からの湧水量を確保するために重要な働きをしている、崖線緑地を保全していきます。
- ・年間を通じて安定的な水温を保ち、独特な生きものが生息する湧水生態系を、崖線緑地等と一体的に保全していきます。

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	R元年度実施計画	R元年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
3-4-1 崖線緑地を保全する	崖線からの湧水量を確保するために重要な働きをしている、崖線緑地を保全する。	国分寺崖線の緑が面的に維持・確保されるよう努めるとともに、湧水にいたる地下水の流れが妨げられないよう地下水保全条例を運用する。	環境政策課	継続	国分寺崖線の緑についても平成30年度と同様の面積を維持した(40,620.16㎡)。	A
3-4-2 崖線緑地に育まれた湧水生態系を保全する	年間を通じて安定的な水温を保ち、独特な生きものが生息する湧水生態系を、崖線緑地等と一体的に保全する。	生物多様性の確保に重要な湧水生態系の生きもの調査を、団体との連携や市民参加で継続する。	環境政策課	継続	4か所、年2回6月、12月に実施した。（調査結果は48ページに掲載）	A

### 3-5 水の循環的利用

- ・家庭（日常生活）や事業所活動における節水の重要性を啓発し、節水行動を促進します。
- ・公共施設や大規模施設での中水利用を検討します。
- ・雨水を貯留し、散水などへの利用を実践していきます。

### 第3章 基本計画の取組の進捗状況

- ・災害時利用のための井戸の管理を徹底していきます。

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	R元年度実施計画	R元年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
3-5-1 節水を推進する	日常生活や事業活動における節水の重要性を啓発し、節水行動を促進する。	環境行動指針の啓発などを通じ節水意識の向上と実践に努める。	環境政策課	継続	希望する市民に環境行動指針を配布すると共に、全職員に環境マネジメントシステムハンドブックを配布し、節水を呼び掛けた。	A
3-5-2 用途に応じた合理的な水利用を推進する	公共施設や大規模施設での中水利用を検討する。	新設する公共施設の建設計画にあたっては、できる限り中水利用施設の設置を計画する。	関係各課	継続	新設する公共施設の該当がなかったため、設置及び計画実施なし。	C
	雨水を貯留し、散水などへの利用を実践する。	雨水貯留施設設置費補助制度により、設置率の向上に努める。	環境政策課	継続	補助金により雨水貯留施設の設置を推進した。2件、41,830円	B
3-5-3 地下水の適正利用に向けた環境を整える	災害時利用のための井戸の管理を徹底する。	防災井戸や災害用井戸を適正に管理する。	地域安全課	継続	防災井戸は年1回（2月）の保守点検及び水質検査を実施、災害用井戸（38件）は年1回（1月）水質検査を実施した。4箇所では採水不可、5箇所では飲用として適さないとの結果があったため、7箇所は経過観察、2箇所は協定解除することとした。	A

### 3-6 市民等の啓発と連携

- ・地下水や湧水の保全には、市民の参加・協働が不可欠であるため、地下水や湧水に関してわかりやすい形で情報提供を行っていきます。
- ・市民等が参加するモニタリング、学習会、環境保全活動を行い、地下水・湧水・河川への関心や理解を高め、環境保全活動を発展させていきます。

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	R元年度実施計画	R元年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
3-6-1 情報収集や環境保全活動を連携して推進する	地下水や湧水に関する情報を市民に提供する。	地下水・湧水についての情報収集・整理・分析を行い、調査データをホームページ等で情報発信する。	環境政策課	継続	井戸13か所年4回、湧水4か所年2回の水質測定を実施した。また、環境報告書で結果を公開した。（調査結果は47、48ページに掲載）	A
	市民等が参加するモニタリング、学習会、環境保全活動を行い、地下水・湧水・河川への関心や理解を高め、環境保全活動を発展させる。	環境市民会議による地下水・湧水のモニタリングや環境講座を支援する。	環境政策課	継続	環境市民会議での地下水位測定は平成29年度をもって終了したため、市が実施することとなった。市内11か所の地下水位測定を12回行った。（調査結果は48ページに掲載）	A

## 4. 自然環境を一体的に保全する

現状、小金井市の自然環境は、東西には玉川上水と五日市街道沿い、また国分寺崖線と野川沿いに、水辺と緑が一体となって帯状につながっています。しかし、南北には水辺と緑のつながりはなく、かつてあった湧水や用水とその周辺の緑も、次第に減少しています。

崖線・緑・湧水の一体的な保全、大規模公園・緑地・大学などの緑・住宅地の緑のネットワーク化などを実現することは、市民にとっては良好な自然を享受できる生活環境を形成することであり、そこに住む生きものにとっては生物多様性の維持にもつながります。

また、東京都の「緑施策の新展開～生物多様性の保全に向けた基本戦略～」を踏まえて、生物多様性保全計画の立案等に係る取組についても検討していきます。

#### 【令和元年度の実績と今後の取組】

現存する緑の適切な維持管理や湧水の生きもの調査、市民向けの自然と触れ合うイベントの開催などが継続的に実施され、市民への意識啓発などに一定寄与しました。

今後は、多様な生物と共生できる自然環境の保全・回復・再生活動の理解を深める啓発活動を推進していきます。

#### 4-1 自然環境の保全

- ・水とみどりのネットワーク形成に努めます。
- ・湧水等の再生とともに、大規模公園・緑地・大学の緑や住宅地の緑をつなげ、水と緑を一体的に回復・創造していきます。

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	R元年度実施計画	R元年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
4-1-1 水と緑の連続性を確保する	大規模公園・緑地・大学の緑や住宅地の緑をつなげ、また、湧水等を再生させて、水と緑を一体的に回復・創造していく。	つながりが弱い南北の水とみどりのネットワーク形成のあり方を検討し、水とみどりのネットワーク形成に努める。	環境政策課	継続	法政大学・中央大学の樹木について、新たに保存樹木に指定し、みどりのネットワーク形成を推進した。	A

#### 4-2 生物の多様性の保全

- ・ボランティア等の活動を推進し、学校花壇や農園、ビオトープ等の生物の生息空間の適正な維持管理に努めます。
- ・野川の自然再生に継続して取り組みます。
- ・湧水地の生きもの調査を団体や市民参加で継続し、調査結果を施策や環境教育に生かします。

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	R元年度実施計画	R元年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
4-2-1 生息空間を保全・創出する	ボランティア等の活動を推進し、学校花壇や農園、ビオトープ等の生物の生息空間の適正な維持管理に努める。	学校花壇や農園、ビオトープ等の適正な維持管理に努める。	指導室	継続	学校花壇や農園、ビオトープ等の適正な維持管理に努めた。	A
	野川の自然再生に継続して取り組む。	野川調節池の自然再生の取組を充実していく。	環境政策課	継続	野川第一・第二調節池地区自然再生協議会を通じて、関係機関等と連携した。	A
4-2-2 動植物を保護する	湧水地の生きもの調査を団体や市民参加で継続し、調査結果を施策や環境教育に生かす。	湧水地の生きもの調査を継続する。	環境政策課	継続	4か所、年2回6月、12月に実施した。（調査結果は48ページに掲載）	A

#### 4-3 人と自然とのふれあいの確保

- ・水とみどりのネットワークに沿って、遊歩道などの整備を検討します。
- ・市民・団体・事業者・大学等の教育機関・市が協働して、市内の自然にふれあえる環境学習プログラムやイベントを開催していきます。

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	R元年度実施計画	R元年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
4-3-1 水や緑に親しめる遊歩道を整備する	水とみどりのネットワークに沿って、遊歩道などの整備を検討する。	廃減水路等を利用して、遊歩道・緑道などの整備が可能か検討する。	道路管理課	継続	遊歩道整備計画に基づき、整備可能な遊歩道は完了している。	A
4-3-2 自然にふれあう機会をつくる	市民・団体・事業者・大学等の教育機関・市が協働して、市内の自然にふれあえる環境学習プログラムやイベントを開催していく。	市民向けの環境ワークショップ等を企画し、実施する。	環境政策課	継続	環境フォーラム（1回）、環境講座（2回）、クリーン野川作戦（1回）を開催した。	A

## 5. 公害を未然に防止する

小金井市では、目立った公害は発生していませんが、住宅地で騒音や悪臭の苦情が発生するなどの生活型公害は少なくありません。

加えて、平成23年3月11日に発生した東日本大震災の際に起こった原子力発電所の事故による放射性物質の拡散は、これまでの公害とは異なった形で市民に不安を与えてきています。

引き続き公害を未然に防止するため、市民みんなが身近な環境に配慮するとともに、行政や事業者等がそれぞれ監視・測定や規制・指導・発生抑制などの必要な措置をとるよう努めます。さらに、公害が発生した場合には、その影響を最小限に抑えるため、迅速で的確な措置がとれる体制を充実していきます。

また、化学物質対策におけるリスクコミュニケーションの促進やヒートアイランド対策を推進していきます。

### 【令和元年度の実績と今後の取組】

自家用車の利用から公共交通や自転車への交通手段の転換を促進するため、平成30年度から引き続きCoCoバス再編事業を実施したほか、駅周辺に補助金を活用した民設民営自転車駐車を開設する等駐輪台数を確保しました。また、化学物質の適正管理、生活型公害への対応、放射能測定などが継続して行われ、公害の未然防止や、市民の生活環境の保全に寄与しました。

今後は、更なる公害対策の充実を図り、公害の未然防止に努めていきます。

### 5-1 公害対策

- ・工場・指定作業場に対する排出抑制のための設備改善・設置への助成を継続します。
- ・自家用車利用から公共交通の利用や徒歩・自転車への交通手段の転換を推進します。
- ・公用車等に低公害車の導入を促進します。
- ・工場・事業所の排水について、監視・指導を行います。
- ・道路上に雨水浸透ますを設置することにより、下水管きよへの雨水流入を抑制していきます。
- ・土壌・地下水汚染対策について、事業所等に啓発していきます。
- ・汚染の未然防止に向けて、事業者による化学物質の適正管理や、除草剤等の適正使用を指導していきます。
- ・生活型公害に関する苦情処理・相談機能を充実していきます。
- ・放射能問題などの新たな公害問題について現状把握に努めます。

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	R元年度実施計画	R元年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
5-1-1 大気汚染対策を推進する	市内事業者等を対象として、地球温暖化対策や公害防止対策等に必要設備導入を推進する。	小金井市小口事業資金融資あっせん制度により、特別設備資金のあっせんを行い、特定金融機関から融資を受けた際の利子及び保証料の一部を補助する。	経済課	継続	■「特別設備資金」のあっせん申込み0件	B
	自家用車利用から公共交通や徒歩・自転車への転換促進をする。	CoCoバスの運行及び自転車利用により自家用車の運転を抑制する。 CoCoバスの運行ルートの見直しを含めた総合的な検証を行う。	交通対策課	継続	2年目となった小金井市コミュニティバス再編事業においては、前年度に整理した現状の課題等を踏まえ、本事業における基本方針を策定した。また、地域懇談会の実施により市民等の意見を踏まえながら、運行基準（案）を一部決定するとともに、運行ルート（案）の検討に着手した。	B
	公用車等に低公害車の導入を促進する。	公用車の買い換えの際は、グリーン購入ガイドラインに基づき環境負荷の少ない車両を導入する。	環境政策課	継続	小金井市グリーン購入基本方針及びグリーン購入ガイドラインに基づき、購入する際は選定を行った。	A
	自転車駐車場の整備・駐輪台数の確保を推進する。	JR中央本線の高架下を含む駅周辺への自転車駐車場の整備を進める。	交通対策課	継続	外的要因により大規模市営自転車駐車場を廃止したが、同跡地に民間事業者による運営を設備売却譲渡の上、確保した。 補助金活用による民設民営自転車駐車場の設置促進。	A
	アスベスト排出等作業届出受付と現場立会いをする。	2,000㎡以下の届出受付を行う。	環境政策課	継続	法律に基づく届出：6件 都条例に基づく届出：6件 市条例に基づく届出：27件	A
5-1-2 水質汚濁対策を推進する	工場・事業所への排水規制をする。	法等に基づく排水の監視及び立入検査を実施する。	下水道課	継続	法等に基づく排水の監視及び立入検査を実施した。	A
5-1-3 土壌・地下水汚染対策を推進する	土壌・地下水汚染対策について、事業所等に啓発する。	ホームページによる情報提供を行う。	環境政策課	継続	ホームページによる情報提供を行った。	A
	汚染の未然防止に向けて、事業者による化学物質の適正管理や、除草剤等の適正使用を指導する。	広報を通じて、除草剤の適正使用を周知する。	環境政策課	継続	ホームページにおいて、除草剤の適正使用について情報提供を行った。	A
	化学物質の適正管理を促進する。	化学物質取扱い事業所から使用量報告をもらう。	環境政策課	継続	都条例報告実績：14件 市条例報告実績：5件	A
	低農業で安全な作物の生産を推奨する。	残留農薬検査に対し補助を行い、低農業で安全な作物の生産を推奨する。	経済課 農業委員会	継続	■残留農薬検査申請なし	B
5-1-4 その他の生活環境への影響を防止する	地区計画制度、建築協定によるまちづくりを推進する。	まちづくり条例により、地区計画制度、建築協定の作成手続き等の支援を行う。	まちづくり推進課	継続	本町四丁目地区地区計画を策定した。	A
	生活型公害に関する苦情処理・相談機能を充実する。	国・都等の研修制度を利用し、苦情処理・相談に対する対応方法等の向上を図る。	環境政策課	継続	国、東京都及び東京都環境・公害事務連絡協議会主催の研修等に必要に応じて参加した。	A
	放射能問題などの新たな公害問題について現状把握に努めるとともに学校給食等の安全性を確保する。	空間放射線量の測定及び給食食材放射性物質の測定結果をホームページ等により情報提供する。 また、希望する市民に対し、食品の放射能測定を、市民協働で実施する。	環境政策課 経済課 地域安全課	継続	空間放射線量測定を市内60か所で行って1回実施した。 (環境政策課) 測定件数45件（一般市民） 測定機器の故障により機器を更新、それに伴い測定時の運用方法を見直した。 市報、ホームページ、ツイッターで測定再開の情報提供を行った。 (経済課) 給食食材放射性物質の測定（小中学校288件、保育園340件）を実施し、結果を市ホームページにより公表した。 (地域安全課) (調査結果は51ページに掲載)	A

## 5-2 有害化学物質対策

- ・ 公共施設のシックハウス状況を測定し、改善します。
- ・ 市民・事業者に対して化学物質の適正な使用・管理・廃棄を指導します。
- ・ P R T R制度や都の環境確保条例に基づく情報を提供します。
- ・ 化学物質に関するデータベースを活用し、市民等への情報提供に努めます。

### 第3章 基本計画の取組の進捗状況

- ・化学物質の環境リスク情報を提供していきます。
- ・市民や事業者とのコミュニケーションのさらなる促進を図ります。

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	R元年度実施計画	R元年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
5-2-1 化学物質を適正管理する	教室等公共施設のシックハウス状況の調査測定・改善をする。	公共施設における机・椅子・コンピュータ等の備品購入の際、必要に応じてシックハウス状況の調査測定を行う。	学務課 保育課	継続	現在のところ、特に基準値以上の値は検出されていないが、引き続き検査は随時行っていきたい。 （学務課） 今年度は改修工事等がなかったことから、実績はない。 （保育課）	A
	市民・事業者に対して化学物質の適正な使用・管理・廃棄を指導する。	化学物質取扱い事業所から使用量報告をもらう。	環境政策課	継続	都条例報告実績：14件 市条例報告実績：5件	A
	PRR制度や環境確保条例に基づく情報提供をする。	ホームページによる情報提供をする。	環境政策課	継続	ホームページによる情報提供を行った。	A
	化学物質に関するデータベースの整備・活用を行い、市民等への情報提供をする。	化学物質に関する情報をホームページ等により提供をする。	環境政策課	継続	化学物質に関する情報をホームページにより提供した。	A
5-2-2 リスクコミュニケーションを促進する	化学物質の環境リスク情報の公開をする。	環境リスクに関する情報をホームページ等により提供をする。	環境政策課	継続	環境リスクに関する情報をホームページにより提供した。	A
	市民や事業者とのコミュニケーションの更なる充実を図る。	環境リスクに関する情報を市民・事業者と共有する。	環境政策課	継続	ホームページや設置チラシによる情報提供、また、窓口対応時における情報交換等を行った。	A

### 5-3 ヒートアイランド対策

- ・建物敷地・道路・建築物における緑化を促進します。
- ・道路等の人工地盤における雨水浸透性や保水性の向上を図ります。
- ・省エネルギー性能の優れた建築物の普及促進により、人工排熱の低減を図ります。
- ・緑のカーテンを普及促進します。

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	R元年度実施計画	R元年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
5-3-1 建物敷地・道路・建築物のコンクリート面やアスファルト舗装を見直す	建物敷地・道路・建築物における緑化を促進する。	小・中学校（6校）の運動場芝生維持管理を進める。	庶務課 道路管理課	継続	小・中学校（6校）の運動場芝生維持管理を行った。 （庶務課） 管理道路（旧水路敷）にサツキを20株植樹した。 （道路管理課）	A
	道路等の人工地盤における雨水浸透性や保水性の向上を図る。	歩道の透水性舗装を促進する。 雨水貯留施設（雨水タンク）の設置を推進し、打ち水の取組を奨励する。	道路管理課 環境政策課	継続	市道1号線に透水性アスファルト31㎡を舗装した。 都市計画道路3・4・3号線に透水性ILB1,540㎡を舗装した。 都市計画道路3・4・12号線に透水性ILB344㎡を舗装した。 一部、計画どおりに達成した。 （道路管理課） 雨水貯留施設2件に補助を行い、打ち水イベントを実施した。 （環境政策課）	B
	省エネルギー性能の優れた建築物の普及促進により、人工排熱の低減を図る。	公共施設等においてエクセルギーを有効に活用する。	環境政策課	継続	公共施設の新築や改修においては、極力、省エネルギー性能の高いものになるよう呼びかけている。	A
5-3-2 緑の保全・壁面緑化等を普及促進する	緑のカーテンを普及促進する。	公共施設を対象に屋上緑化・壁面緑化を推進する。	庶務課 環境政策課	継続	環境楽習館で緑のカーテンを行った。 （環境政策課） 未実施 （庶務課）	B



## 6. 小金井らしい景観をつくる

「小金井らしい景観」について、多くの人の合意した共通理解はありません。環境要素として価値のある水と緑が一体となった景観や文化遺産を含め、「小金井らしい景観」とは何かについて市民とともに考え、共通認識を形成することが必要です。多くの市民が小金井らしさを感じる国分寺崖線や農地、屋敷林などの緑、自然とのつながりの中で形成されてきた有形・無形の文化遺産の保全に努めます。

### 【令和元年度の実績と今後の取組】

不法投棄や農地のパトロール、ごみ出しや屋外広告のマナー啓発等のまちなみを美しく保つための取組を継続して行い、景観の確保に寄与したほか、市史編さんを記念した講演会を実施するなど、市民が文化財とふれあい、親しめる機会を提供しました。

今後も引き続き、現状の取組を継続しながら、自然環境や歴史的景観を保全し、周辺との調和が図られた「小金井らしい景観」の創造に努めていきます。

### 6-1 小金井らしい景観の確保

- ・国分寺崖線や農地、屋敷林などを保全・活用していきます。
- ・指定開発事業においては、環境配慮指針に基づき小金井らしい景観を守り、環境負荷の少ない施設整備を進めていきます。
- ・ポイ捨ての防止などの普及啓発活動を促進させ、環境美化活動を継続します。
- ・ごみ出しマナーの向上に向けた普及啓発活動を継続します。
- ・屋外広告物のマナーの向上に向けた普及啓発活動を継続します。
- ・アダプトプログラムを推進します。

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	R元年度実施計画	R元年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
6-1-1 小金井らしい景観を保全する	国分寺崖線や農地、屋敷林などを保全し、活用していく。	環境保全緑地や保存樹木の指定等を行い、緑地の保全を図る。	環境政策課 農業委員会	継続	生産緑地は減少したものの、環境保全緑地については、下記の内容を指定した。 環境緑地：47,785.21㎡ 公共緑地：4,150.76㎡ 保存樹木：842本 保存生垣：4357.9m （環境政策課） ■農地利用状況調査 期間：8月～10月 （別途随時見回り） （農業委員会）	A
	指定開発事業においては、環境配慮指針に基づき小金井らしい景観を守り、環境負荷の少ない施設整備を進めていく。	指定開発事業にあたっては、事業者が環境配慮指針に適合するような計画にするよう指導の徹底を図る。	まちづくり推進課 環境政策課	継続	令和元年度指定開発事業において環境配慮指針に基づく宅地内緑化実施件数：7件（まちづくり推進課・環境政策課）	A

### 第3章 基本計画の取組の進捗状況

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	R元年度実施計画	R元年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
6-1-2 まちなみを美しく保つ	ポイ捨ての防止などの普及啓発活動を促進させ、環境美化活動を継続する。	定期的なバトロールの実施及び不法投棄厳禁・ポイ捨て禁止等の啓発看板を設置する。	ごみ対策課	継続	不法投棄が多い箇所へのバトロール実施。市民への各種啓発看板の配布を実施。路上禁煙地区については、清掃活動の実施及び路面標示を設置。	A
	ごみ出しマナーの向上に向けた普及啓発活動を継続する。	市報・市ホームページ・アプリ等広報媒体を活用した周知を行い、ごみ出しマナーの向上に努める。	ごみ対策課	継続	カレンダー、市報、市ホームページ及びアプリを活用してマナー向上の啓発を実施したほか、排出マナーの悪い事業所等への直接指導を実施。また、外国語（英・中・韓）のごみ分別チラシを作成した。	A
	屋外広告物のマナーの向上に向けた普及啓発活動を継続する。	パンフレットを作成し配布する。	道路管理課	継続	違反処理による除却枚数：はり紙435枚、はり札等24枚、広告旗6枚、立看板等3枚	A
	アダプトプログラムを推進する。	アダプトプログラムによる環境美化サポーター制度の活用促進や、新たなプログラムの開発を推進する。	企画政策課 環境政策課 道路管理課 ごみ対策課	継続	関係課へ情報提供をしている。 （企画政策課） 環境美化サポーター制度に従い、21団体と協定を結び、環境美化活動に取り組んだ。 （環境政策課） 団体及び個人により市道等の清掃が行われている。会員数は394名。市民との協働による環境美化活動を推進したい。 （道路管理課）	A

## 6-2 文化遺産の保全

- ・現地視察などを通じて、文化遺産とふれあい、親しむ機会を提供していきます。
- ・玉川上水・五日市街道等の歴史的風致や浴恩館等の史跡の活用に向けて情報提供を行います。
- ・水田・用水路復活としての自然再生事業を支援します。

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	R元年度実施計画	R元年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
6-2-1 文化遺産を保全・継承する	現地見学などを通じて、文化財とふれあい、情報や親しむ機会を提供する。	文化財センターでの展示、各種講座、文化財・史跡めぐりをテーマとしたまち歩き等を実施する。	生涯学習課	継続	・企画展1回 ・文化財講演会1回 ・小金井市史刊行記念講演会1回 ・史跡めぐり1回 ・古文書講座（未実施）	B
	農地・屋敷林・社寺・ハケの緑地の保全をする。	緑地保全については関係課と相互の調整を図る。法に基づく適正な農地の肥培管理を促す。制度を活用した保全を図る。農地・屋敷林等について、所有者と保全に向けた調整を図る。	経済課 農業委員会 環境政策課	継続	■農地利用状況調査 期間：8月～10月 （別途随時見回り） （経済課・農業委員会） ■小金井市緑地保全及び緑化推進条例に基づき緑地・樹木・生垣の所有者からの申請により市内の緑の保全を図った。 環境緑地：47,785.21㎡ 公共緑地：4,150.76㎡ 保存樹木：842本 保存生垣：4357.9m （環境政策課）	A
6-2-2 文化遺産をまちづくりに生かす	玉川上水や浴恩館等の史跡の保全・活用に向けて情報提供や親しむ機会を作る。	文化財センターで文化財等の企画展を開催することや文化財めぐりで現地を見てもらう。	生涯学習課	継続	・季節展1回	A
	水田・用水路復活としての自然再生事業を支援する。	野川自然協議会に参加し、野川調節池での自然再生事業に係る活動の運営を支援する。	環境政策課	継続	野川調節池での自然再生事業に係る活動支援施設への支援を行った。	A

## 7. ごみを出さない暮らしとまちをつくる

ごみの処理・処分は、地域環境・地球環境に負荷が生じる一方で、事務事業におけるコスト増加につながります。

ごみ減量をさらに進めるためには、市民・事業者・行政の連携を強化するとともに、ごみを出さないライフスタイルを推進し、発生抑制を最優先とした3Rの取組を実践することが重要です。そして、使えるものは何度でも使うリユースと、分別を徹底し、資源になるものを捨てずに再生して利用するリサイクルに努めることが重要です。

### 【令和元年度の実績と今後の取組】

発生抑制を最優先とした3Rの推進に向けて、「ごみを出さないライフスタイルの推進」を優先的に実施することとしています。その取り組みとして、余っている食品を集め、寄付するフードドライブ事業、食品ロス削減推進協力店・事業所認定制度、小金井市食品ロス削減プロジェクト2020運動を実施しました。

浅川清流環境組合において、日野市内に新可燃ごみ処理施設が建設されました。本市は、市民の方々のご協力により、人口10万人以上50万人未満の市町村において、1人1日当たりのごみ排出量が最も少なく、リサイクル率も第2位という高い数値を維持しておりますが（環境省「一般廃棄物の排出及び処理状況等（平成30年度）について」より）、施設周辺住民をはじめとした関係者の負担を軽減するため、今後も引き続き3Rを推進し、更なるごみの減量に取り組めます。

### 7-1 ごみを出さない

- ・簡易包装や量り売りの励行等による包装材の削減、レジ袋の削減等を奨励します。
- ・分別等の指導により、ごみの減量及び資源化を促進させます。
- ・ごみを出さないライフスタイルを普及啓発していきます。
- ・ごみを出さないこと（発生抑制）を最優先とし、リユース、リサイクルを意識した行動を実践することができるように、啓発活動を強化します。
- ・ごみをテーマとした環境学習の場を提供していきます。

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	R元年度実施計画	R元年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
7-1-1 ごみになるものはもらわない・買わない	簡易包装や量り売りの励行等による包装材の削減、レジ袋の削減等を奨励する。	市報・市ホームページ等広報媒体を活用して、ごみになるものはもらわない・買わない取組やリサイクル推進協力店認定制度の周知を図る。	ごみ対策課	継続	令和元年度末現在16店舗認定。ごみリサイクルカレンダー、市報ごみ減量・リサイクル特集号及び市ホームページで、リサイクル推進協力店の情報を掲載。	A
	分別等の指導により、ごみの減量及び資源化を促進させる。	事業所の排出状況調査及び分別等の指導を行う。	ごみ対策課	継続	事業所へのごみ減量と資源化について指導を継続する。（令和元年度は新可燃ごみ処理施設の本格稼働に向けて事業所調査を実施した。実績72事業所）	A
	マイバック持参を奨励する。	消費生活展等において、引き続き、啓発用グッズを配布し、マイバック持参を奨励する。	経済課	継続	消費生活展の来場者に啓発用グッズを配布した。（毎年3月実施の消費者ルームまつりは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）	B

### 第3章 基本計画の取組の進捗状況

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	R元年度実施計画	R元年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
7-1-2 ライフスタイルを変える	ごみを出さないライフスタイルの普及啓発をする。	市報・市ホームページ等広報媒体での周知、キャンペーンの実施及びイベントへの出展等により、ごみを出さないライフスタイルを推進する。	ごみ対策課	継続	市内外イベント等でDVDや冊子等を活用し、ごみ減量啓発活動を随時実施。	A
	ごみを出さないこと（発生抑制）を最優先とし、リユース、リサイクルを意識した行動を実践することができるよう、啓発活動を強化する。	市報・市ホームページ等広報媒体での周知、キャンペーンの実施及びイベントへの出展等により、発生抑制を最優先とした3R（発生抑制、リユース、リサイクル）を推進する。	ごみ対策課	継続	市報ごみ減量・リサイクル特集号及び市ホームページで情報を提供。	A
	ごみをテーマとした環境学習の場を提供する。	小・中学校や町会・自治会・子供会等へ市職員を講師として派遣する出張講座を実施する。	ごみ対策課	継続	出張講座（12回）等で啓発活動を実施。	A

## 7-2 資源循環の推進

- ・リユース（再使用）に取り組むための情報を提供していきます。
- ・ごみの分別の徹底を図ります。
- ・販売事業者に対してトレイ等の自主回収・処理を継続的に働きかけていきます。
- ・品目別のリサイクルのルート構築に取り組みます。
- ・市民が効果を実感できるリサイクルのあり方を引き続き検討します。
- ・グリーン購入を周知し、普及啓発を進めます。
- ・市の事務事業では、グリーン購入に率先して取り組みます。

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	R元年度実施計画	R元年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
7-2-1 リユースを促進する	リユース（再使用）に取り組むための情報を提供する。	市報・市ホームページ等広報媒体を活用して、リユース施策等の情報を提供する。 また、家庭で使わなくなった物を譲りたい方、譲ってほしい方に利用してもらうため、不用品交換コーナーの活用を市報等で周知する。	ごみ対策課 経済課	継続	市報ごみ減量・リサイクル特集号及び市ホームページで情報を掲載。 （ごみ対策課） リサイクルバザー出展者81人・利用者416人 おもちゃの病院利用者43人 食器リユース利用者85人 （令和2年3月は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止） 不用品交換コーナー〈常設〉登録件数 70件 （経済課）	B
	市民が効果を実感できるリサイクルのあり方を引き続き検討する。	消費者団体の取組みを支援し、再利用・再資源・省資源化を推進する。	経済課	継続	食器リユース回収量359.7kg	A
	環境学習関連資料を提供する。	環境教育にかかわる資料を学校に提供する。	指導室	継続	環境教育にかかわる資料を学校に提供した。	A
7-2-2 分別排出・回収の取組を強化する	ごみの分別の徹底を図る。	清掃指導員による分別指導を強化する。	ごみ対策課	継続	市民からの要望等があった際に随時清掃指導員を派遣し、分別指導を実施した。	A
	販売事業者に対してトレイ等の自主回収を継続的に働きかける。	自主回収・自主処理を行う店頭回収事業所の拡大に向けて、事業所への働きかけを行う。	ごみ対策課	継続	自主回収・自己処理を行っている1店舗を新たにリサイクル推進協力店に認定した。	A
	品目別のリサイクルのルート構築に取り組む。	効率的な資源化ルート構築し有効利用先を確保する。	ごみ対策課	継続	適切に効率的な資源化ルートを確認し資源化を行った。また関係機関との情報交換に努め、新たな資源化ルートについても随時調査、研究を実施している。	A
7-2-3 グリーン購入を推進する	グリーン購入を周知し、普及啓発を進める。	ホームページ等を活用し、市民・事業者等にグリーン購入についての普及啓発を図る。	環境政策課	継続	平成30年度グリーン購入実績とともにグリーン購入ガイドライン・基本方針をホームページに掲載し、普及啓発を図った。	A
	市の事務事業では、グリーン購入に率先して取り組む。	庁内のグリーン購入実績をホームページで公表し市の取組として報告する。	環境政策課	継続	平成30年度グリーン購入実績をホームページに新たに掲載した。	A

### 7-3 適正な処理

- ・ごみ収集車両等には、環境負荷の少ない車両の導入に努めます。
- ・一般廃棄物の減量や適正処理を徹底し、廃棄物処理による環境負荷を削減します。
- ・燃やすごみの共同処理を目指し、新可燃ごみ処理施設の整備を行います。
- ・不燃・粗大ごみ処理施設のあり方を検討します。

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	R元年度実施計画	R元年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
7-3-1 環境負荷の少ない収集運搬・中間処理・最終処分を目指す	ごみ収集車両等には、環境負荷の少ない車両の導入に努める。	ごみ収集車両の買い換えの際には、環境負荷の少ない車両を購入する。	ごみ対策課	継続	直営については導入実績無しだが、委託は買い替えの際に導入している。	A
	一般廃棄物の減量や適正処理を徹底し、廃棄物処理による環境負荷を削減する。	収集された不燃系ごみの徹底した選別を行い、資源化処理を図る。	ごみ対策課 (中間処理場)	継続	令和元年度埋立処理量 0 t 令和元年度中間処理場施設資源化量 3,583 t	A
7-3-2 新たな処理施設のあり方を検討する	可燃ごみの共同処理に向けて、新可燃ごみ処理施設の整備を行う。	浅川清流環境組合（構成市：日野市、国分寺市、小金井市）で実施する新可燃ごみ処理施設整備・運営事業が円滑に進むよう、構成市として与えられた責任を果たす。	ごみ対策課	完了	浅川清流環境組合において令和2年度の新可燃ごみ処理施設本格稼働を目指して進めてきた建設工事が完了した。本市は組合構成団体として与えられた責任を果たした。	A
	不燃・粗大ごみ処理施設のあり方を検討する。	清掃関連施設整備基本計画に基づき、施設整備予定地周辺住民のご意見も伺い、施設整備事業に取り組む。	ごみ対策課	継続	清掃関連施設整備基本計画に基づき、二枚橋焼却場跡地に設置する不燃・粗大ごみ積替え・保管施設の設計施工業者を令和2年3月に決定した。	A

### 7-4 有機性資源の有効利用

- ・生ごみ減量化処理機器の普及を図ります。
- ・堆肥化施策による生ごみの資源化を推進します。
- ・枝木・雑草類・落ち葉等の有効利用を推進します。

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	R元年度実施計画	R元年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
7-4-1 生ごみの堆肥化利用を促進する	生ごみ減量化処理機器の普及を図る。	市報・市ホームページ等広報媒体を活用して、生ごみ減量化処理機器購入費補助制度を広く周知する。	ごみ対策課	継続	令和元年度実績 214件（電動式207件、手動式7件、コンポスト5件） 昨年度実績より50件近く減少した。	B
	堆肥化施策による生ごみの資源化を推進する。	生ごみ堆肥化施策を推進し、有機性資源の有効利用を推進する。	ごみ対策課	継続	市立小中学校等に設置している生ごみ処理機、戸別回収及び拠点回収により生ごみ乾燥物を回収した（回収量46,764kg）。	A
7-4-2 剪定枝等の資源化を推進する	学校樹木の剪定・枝葉資源化事業をする。	剪定枝・落葉・雑草を堆肥化し燃やすごみを減量する。	学務課 保育課	継続	チップマシーンにより各学校でチップ化している。また、チップ化できない太枝については、請負業者がリサイクルしている。 (学務課) 落葉等を腐葉土として、畑作りや花壇に使用した。 (保育課)	A
	公園・街路樹等の剪定を行い、枝葉を利用する。	剪定枝のチップ化を行い、緑のリサイクルに努める。 また、街路樹の管理委託業者に、発生した枝葉等は自らリサイクル（チップ化等）に努めるように指示する。	環境政策課 道路管理課	継続	チップ化したものを、市の公園緑地の敷き均し材として使用。 (環境政策課) 再利用ができる施設に搬入するように指示した。 搬入量127.1 t (道路管理課)	A
	公園の枯葉を堆肥にして、農家に提供する。	緑のリサイクルをする。 情報の共有を図る。 ※東京電力福島第一原子力発電所の事故により放射性物質が原子炉から大気中に放出されたため、落葉堆肥の生産・流通については国から自粛するよう通知がなされている。 状況により事業を再開する。	環境政策課 農業委員会	継続	国からの落葉堆肥の生産・流通についての自粛要請に従い、事業は実施しなかった。緑のリサイクルについては情報共有を図った。 (環境政策課・農業委員会)	B

### 第3章 基本計画の取組の進捗状況

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	R元年度実施計画	R元年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
7-4-2 剪定枝等の資源化を推進する	枝木・雑草類・落ち葉の有効利用を図る。	市報・市ホームページ等広報媒体を活用して周知に努め、可燃ごみの減量に繋がる枝木・雑草類・落ち葉の更なる有効利用を図る。	ごみ対策課	継続	令和元年度回収量実績 1,549,695 kg	A

## 8. 地域から地球環境を保全する

地球温暖化対策は、世界各国が連携して推進するグローバルな環境保全活動も重要ですが、市民・事業者・行政がそれぞれの立場から省エネルギー、再生可能エネルギーを考慮した生活・事業の取組を進め、地域が一体となって行動することが極めて重要です。

小金井市では、「小金井市地球温暖化対策地域推進計画」の見直しを行い、計画をさらに推進していきます。また、再生可能エネルギー等の導入促進などによって、地球規模の環境の悪化につながる行動を見直し、地球市民として積極的に環境保全活動に参画する環境にやさしい仕組みづくりを進め、地域から地球環境への負荷の軽減を図ります。

### 【令和元年度の実績と今後の取組】

環境行動チェックリストに基づいた庁内の環境行動のチェック、公共施設の照明LED化、一般家庭への再生可能エネルギー等の導入促進等、地球温暖化対策の一環となる取組を継続して行いました。

市全体のエネルギー使用量は着実に減少傾向にありますが、温室効果ガスは電気の排出係数の影響を大きく受けることから、再生可能エネルギーの普及啓発と更なる省エネを呼び掛けていきます。

### 8-1 地球温暖化の防止

- ・地球温暖化対策地域推進計画に基づいて、地球温暖化対策を総合的に推進します。
- ・電気・ガス・水を節約します。
- ・自動車の運行によって排出される二酸化炭素の排出削減を目指します。
- ・エネルギーを削減するライフスタイルの普及啓発活動を促進します。
- ・公共施設への再生可能エネルギー利用設備の導入に努めます。
- ・住宅に対する再生可能エネルギー等利用設備の導入を支援します。
- ・自転車駐車場の整備とともに自転車利用を促進するなど、自動車に依存しない、環境に配慮した都市整備を進めます。
- ・公共施設整備において、省資源・省エネルギー・雨水浸透・雨水利用・緑化・再生可能エネルギー活用等による環境配慮事業を促進します。
- ・建築物等におけるエネルギー負荷の削減を促進します。
- ・既存の緑や河川等の水辺を生かして、まちの東西・南北に水とみどりのネットワークの形成を図ります。
- ・指定開発事業について、環境配慮指針に基づき、事業計画を指導していきます。

第3章 基本計画の取組の進捗状況

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	R元年度実施計画	R元年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
8-1-1 地球温暖化対策を推進する	地球温暖化対策地域推進計画に基づいて、地球温暖化対策を総合的に推進する。	地球温暖化対策実行計画（市役所版）を推進し、庁内の温室効果ガスを削減する。	環境政策課	継続	市公共施設からの温室効果ガス排出量 5,906,192kg（基準年比26.1%増加）	B
8-1-2 エネルギー利用に伴う環境負荷を削減する	電気・ガス・水を節約する。	庁内の電気・ガス・水道を節約する。	全課	継続	前年度増減率の数値 電気使用量 前年度比 0.23%減 ガス使用量 前年度比 0.00% 上下水道量 前年度比 2.08%増	B
	自動車の運行によって排出される二酸化炭素の排出削減を目指す。	庁舎間あるいは公共施設間の移動には、徒歩や自転車利用のほか公共交通機関の利用に努め、市民・事業者に対しても公共交通機関の利用を促進する。また、エコドライブ講習会を実施する。	環境政策課 交通対策課	継続	5月と11月にエコドライブ講習会を全8回実施した。（参加者23名） 環境政策課自動車を電気自動車に入れ替えた。 （環境政策課） 2年目となった小金井市コミュニティバス再編事業においては、前年度に整理した現状の課題等を踏まえ、本事業における基本方針を策定した。また、地域懇談会の実施により市民等の意見を踏まえながら、運行基準（案）を一部決定するとともに、運行ルート（案）の検討に着手した。 （交通対策課）	B
	エネルギーを削減するライフスタイルの普及啓発活動を促進する。	環境行動指針のチェックシートを活用する。	環境政策課	継続	環境イベント等の開催時に環境行動指針を配布し、市民にライフスタイルの変換を促した。	A
8-1-3 エネルギーを創出する（再生可能エネルギー）	公共施設への再生可能エネルギー利用設備の導入に努める。	公共施設の建設・改修工事では、環境に配慮した施設整備を促進するとともに、建替えや大規模改修の際には、太陽光発電・雨水貯留施設等の設置を検討する。	関係各課	継続	公共施設の建設・改修工事等がなかった。	C
	住宅に対する再生可能エネルギー等利用設備の導入を支援する。	住宅用新エネルギー機器等普及促進補助金により、住宅における再生可能エネルギー機器等の設置を支援する。また、小金井市増改築資金あっせん制度により、自己の居住する家屋の増改築、太陽光発電設備等の設置を行う市民に、その資金の一部の融資をあっせんし、利息の助成を行う。	環境政策課 まちづくり推進課	継続	燃料電池 74件 3,700,000円 太陽光発電設備 36件 3,279,000円 蓄電池システム 32件 1,600,000円 （環境政策課） 小金井市増改築資金あっせん制度 新規：0件 継続：0件 （まちづくり推進課）	B
8-1-4 エネルギーの使用削減を目指した低炭素まちづくりを推進する	自転車駐車場の整備とともに自転車利用を促進するなど、自動車に依存しない、環境に配慮した都市整備を進める。	公道にある放置自転車等を継続的に撤去し、駐車秩序の確立を図る。	交通対策課	継続	撤去台数：1,566台（前年度2,376台）	A
	公共施設整備において、省資源・省エネルギー・雨水浸透・雨水利用・緑化・再生可能エネルギー活用等による環境配慮事業を促進する。	公共施設の整備に際して、環境に配慮した施設整備を促進するとともに、建替えや大規模改修の際には、太陽光発電・風力発電の設置を検討する。	関係各課	継続	小金井市立小金井第一小学校給食機器設置に伴う設備等改修工事(LED照明30台設置,高効率空調用機器設置E-HP4台),小金井市立前原小学校トイレ改修工事(LED照明13台設置),小金井市立小学校給食室トイレ改修工事(LED照明10台設置),小金井市立東中学校トイレ改修工事(LED照明25台設置),小金井市立東中学校受水設備改修工事(LED照明4台設置),小金井市婦人会館耐震補強工事(LED照明48台),小金井市立はげの森美術館茶室「花優庵」修復工事(LED照明6台設置),小金井市総合体育館大規模改修工事(第1期)(LED照明149台設置,高効率空調用機器設置E-HP6台),小金井市立図書館本館外壁等改修工事(LED照明3台設置),(仮称)小金井市立あかね第4・第5学童保育所新設工事(LED照明77台設置,高効率空調用機器設置E-HP5台) (建築営繕課)	A
	建築物等におけるエネルギー負荷の削減を促進する。	断熱性能向上やエクセルギーの有効活用など、住宅等における省エネ対策を促進する。また、雨水を生かしたまちづくりをめざし、雨水浸透ます・雨水貯留施設の設置を推進する。	環境政策課 下水道課	継続	補助金により雨水貯留施設の設置を推進した。2件、41,830円 （環境政策課） 雨水浸透ますについて、昭和63年8月以前の既存建築物に設置する場合、助成金を交付した。 申請件数2件・浸透ます4個 （下水道課）	B

### 第3章 基本計画の取組の進捗状況

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	R元年度実施計画	R元年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
8-1-4 エネルギーの使用削減を目指した低炭素まちづくりを推進する	既存の緑や河川等の水辺を生かして、まちの東西・南北に水とみどりのネットワークの形成を図る。	温室効果ガス吸収源として、崖線・農地・屋敷林・寺社林等の緑を保全する。	環境政策課	継続	環境緑地制度等を用いて崖線上のみどり(40,620.16m)や農地、屋敷林を継続して保全を図った。	A
	指定開発事業について、環境配慮指針に基づき、事業計画を指導していく。	指定開発事業には、小金井市環境配慮計画書の提出を事業者に求め、環境に配慮した開発事業を指導する。	まちづくり推進課 環境政策課	継続	指定開発事業の同意協議において、環境配慮計画書の提出を求めた。提出件数：11件	A

## 8-2 オゾン層の保護

- ・オゾン層を破壊するフロン類の適正な回収・処理を促進します。

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	R元年度実施計画	R元年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
8-2-1 フロン類を適正回収する	オゾン層を破壊するフロン類の適正な回収・処理を促進する。	フロン回収業者に対し、フロン類が適正に回収・処理されるよう情報提供を行う。	環境政策課	継続	市民・事業者にフロン類の適正な回収についてチラシ等で情報提供を行った。	A

## 8-3 その他の地球環境保全

- ・市報等を通じ、市民や事業者が地球環境に負荷を与える行動を見直すための情報提供を行います。
- ・多摩産木材の利用を推進します。
- ・小金井市における環境保全の取組の推進・活性化に向けて、国際的な取組の動向に関する情報収集に努めます。

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	R元年度実施計画	R元年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
8-3-1 地球環境に負荷を与える行動を見直す	市報等を通じ、市民や事業者が地球環境に負荷を与える行動を見直すための情報提供を行う。	環境行動指針を提供し、地球環境破壊につながる行動の見直しを啓発する。	環境政策課	継続	環境フォーラム等のイベント時に希望する市民へ配布した。また、ホームページからのダウンロードによる提供も行っている。	A
8-3-2 森林資源を保護する	多摩産木材の利用を推進する。	公共施設の増改築において、積極的に多摩産木材を採用する。	関係各課	継続	未実施	C
8-3-3 環境問題を通じた国際交流に積極的に参加する	小金井市における環境保全の取組の推進・活性化に向けて、国際的な取組の動向に関する情報収集に努める。	国際交流を進めている地元大学と連携して、小金井市の環境や保全活動の情報を発信する。	環境政策課	継続	国際交流を進めている大学と連携して環境啓発事業を行った。	A